

くらしの中に総務省

一般職 入省案内

MESSAGE
Ministry of Internal Affairs and Communications
2024



採用に関するお問い合わせ

総務省大臣官房秘書課

〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
中央合同庁舎第2号館7階
(代表)TEL.03-5253-5111
(直通)TEL.03-5253-5074・5075



総務省HP採用情報
https://www.soumu.go.jp/menu_syokai/saiyou/index.html



X(旧Twitter) 総務省一般職採用アカウント
(説明会等の採用情報を随時更新しています。)
https://twitter.com/mic_recruit

くらしの中に総務省

総務省は、日本全国にわたる基本的な仕組みから、国民の経済・社会活動に関わる諸制度を担う、国家の根本を支えている省庁です。

その所掌範囲は、国の基本的な行政制度の管理・運営、地方自治(地方分権改革・地域活性化)や消防・救急行政、情報通信技術(ICT)を活用した成長戦略の実現と、多岐にわたっています。

少子・高齢化の進展、地域間格差の拡大、国際競争力の強化など、我が国は多くの課題に直面しています。

今後も私たちは、「総て」を「務める」省庁として、総合性を生かしながら、我が国の行政を担っていきます。

CONTENTS

総務省の組織	P.2
ベテラン職員インタビュー	P.3
先輩からのメッセージ(本省)	
行政制度の管理運営	P.9
地方自治行政	P.13
放送・情報通信・郵政行政	P.17
若手職員対談	P.21
若手職員の1日	P.23
若手職員アンケート	P.25
先輩からのメッセージ (自治体・出向・海外)	
地方自治体	P.28
管区行政評価局	P.31
総合通信局	P.32
他省庁	P.33
国際機関・海外	P.35
在外公館	P.36
キャリアパス	P.37
ワークライフバランス	P.39
採用Q&A/採用情報	P.41
採用チームからのメッセージ	P.42

国家行政の
マネジメントとその改革
国家行政をマネジメントする機関にしか、
実現できない改革がある。

行政管理
行政評価
統計

地方自治
消防

情報通信
(ICT)

「地方分権時代」への
新たな展開
地域のあり方こそ日本の本質、
未来の日本をかたちづくる。

ICTによる
成長戦略の実現
日本経済の活性化と、
豊かで安全な社会の構築を、
情報通信技術により実現していく。

総務省の組織

総務大臣

総務副大臣(2名)
総務大臣政務官(3名)
総務大臣補佐官

総務事務次官
総務審議官(3名)

施設等機関

自治大学校
情報通信政策研究所
統計研究研修所

特別の機関

中央選挙管理会
政治資金適正化委員会
[自治紛争処理委員]
※事件ごとに総務大臣が任命

審議会等

地方財政審議会
行政不服審議会
情報公開・個人情報保護審議会
官民競争入札等監視委員会
独立行政法人評価制度委員会
国地方係争処理委員会
電気通信紛争処理委員会
電波監理審議会
統計委員会
恩給審議会
政策評価審議会
情報通信審議会
情報通信行政・郵政行政審議会
国立研究開発法人審議会

地方支分部局

管区行政評価局(7)
四国行政評価支局
沖縄行政評価事務所
総合通信局(10)
沖縄総合通信事務所



(注)組織図は政令以上で想定される主要組織のみを示しています。(令和6年2月現在)



君のその正しいを行政で実現しよう！

行政評価局調査官(農林水産、防衛担当)

合田 大作 GODA DAISAKU

行政管理
行政評価
統計

Q 総務省への入省を志した
きっかけを教えてください。

お金という価値判断ではなく、純粋に社会の役に立ちたいとの思いで、公務員を受験しました。当時、いくつかの省庁を訪問しましたが、自分とそれほど変わらない年齢ながらも先輩方のイキイキとした総務省の仕事の説明ぶりに惹かれました。かつて某刑事ドラマで「正しいことをしたければ偉くなれ」というセリフが話題になりましたが、この役所は、きっと(偉くならなくても)老若男女問わず、普通に自分が正しいと思ったことを行政で実現できる役所だと信じて入省を決めました。今でもその判断は間違っていなかったと思っています。

Q これまでで、もっとも印象に残った
業務を教えてください。

通常、役所に入ると、自分の所管行政のことしか考えられません。しかし、当省の場合、総務省にいながら他省庁の業務を理解し、現状の仕組みのままではいいのか、業務のやり方として最適なのかなど、関係省庁の職員とも議論を重ねながら、改善点を考えることができます。その点、私の場合、過去、農林水産行政に関わる事が多く、その中でも印象に残った業務の一つ挙げるのなら、補佐時代に担当した「森林の管理活用」の取りまとめで調整が難航していた時に、相手の課長と本音で意見をぶつけ合い、改善の方向性を見出していったことです。

Q 現在の携わっている業務について
教えてください。

現在は、行政評価局の調査官として、室員が調査の取りまとめで行き詰っている時や新たなテーマ選びで苦慮している時などに、共に考え、方向性を示す役割を担っています。そういった時に、室員からは「合田さんは、なぜそんなにいつも楽しそうに仕事ができるのですか？」と聞かれることがあります。それは…自分が常に世の中を変えられる可能性を追いかけているからなのかもしれません。やらされ仕事ほどつまらないものはないのですが、我が局の仕事は、自分がおかしいと素直に感じたことを変えられること。楽しくならないわけじゃないですね。

Q 行政評価・管理分野での
総務省の役割を教えてください。

皆さんは、行政評価にどういったイメージを持っていますか？各省の仕事のやり方を点検し、相手の嫌がることをズケズケと指摘する、いわば粗探しをする役所だと思われていませんか？正直これまでの行政評価局は、そのような存在だと思われていた一面はあります。しかし、今、行政評価局では、各省が政策を進めていく上で、自身では未だ気づき得ない課題があるのではないか？という考え方に立ち、政策をより有効に機能させるためには、何が足りないのかという視点で、政策の目詰まりを発見していくことが役割として求められています。

Q 行政評価・管理分野での
やりがいについて教えてください。

行政評価を行う際に、何か「モノサシ」があればよいのですが、最近では、そういったものがいないために現場が困っている場合が多いです。また、「モノサシ」どおりに物事を進めようとする、それが狂っていることもあります。そのような場合に、自分だったらどうするかといった視点が大事になります。よく行政評価は、国民目線で！と言われることがありますが、私は、この国民目線こそが自分自身であって、自分なりの「モノサシ」ではないかと考えており、その「モノサシ」により行政を変えられることが、私のやりがいにつながっています。

Q 受験者へのメッセージをお願いします。

利害関係者の思惑が複雑に絡み合い、何が正解かも分からない現代においては、今後の行政の進むべき道やあり方を考える上で、皆さんが学生時代に習った知識や経験があまり役に立たないかもしれません。このため、ルールどおりに決められたことを着実にやり遂げるのが公務員の仕事であるといったイメージは、総務省に入ると、いい意味で裏切られることになります。そんな我が省には、(私も含めて)役人らしからぬ役人が大勢揃っており、それぞれの持つ価値判断や感性が試されます。ぜひ我々と一緒に、あなたの「正しい」を実現しましょう！



室員との打ち合わせの一コマ

CAREER PATH

1996～2000年

総務庁入庁～長崎行政監察事務所
地方監察官付(係員級)

当時の厳しい先輩から、行政評価の「いろは」を手ほどき。この時代に、現場行政の重みを強く実感

2007～2008年

総務省行政評価局評価監視官
(厚生労働等担当)
評価監視調査官(係長級)

「年金記録問題検証委員会」において、「宙に浮いた5000万件」の実態解明に明け暮れた日々

2009～2011年

総務省行政管理局査定(農林水産省担当)
主査(係長級)

初めての機構・定員担当として、農水省のあるべき姿を模索していた日々。単に削るだけではダメなことを痛感

2013～2014年

内閣官房行政改革推進本部事務局主査
(係長級)

「国・行政のあり方に関する懇談会」において、新進気鋭の有識者とこの国の「かたち」を議論していた日々

2015～2017年

総務省行政評価局評価監視官
(農林水産、環境、防衛担当)
評価監視調査官(補佐級)

班長として、初めて「森林の管理活用」の調査設計から結果の取りまとめに至るまでの一連のプロセスを担当

2020～2022年

内閣官房内閣人事局査定
(農林水産省、公正取引委員会担当)
参事官補佐

着任早々、農水省の組織再編(局の新設など)の議論が勃発し、実現に向けて関係者間を奔走していた日々

2023年～現職

総務省行政評価局評価監視官
(農林水産、防衛担当)調査官

調査着手前から世間の関心の高かった「墓地行政」の取りまとめを指揮し、なんとか秋の彼岸までに公表が完了



“直感”の先にあったこと

自治行政局住民制度課課長補佐
井上 秀典 INOUE HIDENORI

地方自治
消防

Q 総務省への入省を志した
きっかけを教えてください。

官庁訪問の段階では総務省はいくつかある志望官庁のうちの一つという位置付けでした。実際にいくつかの省庁に官庁訪問し、職員の方々と話した中で、自分が一番活き活きと働けるイメージを持つことができたのが総務省でした。「入省して1、2年で地方勤務がある、数は多くないが海外勤務のチャンスもある」という先輩職員の話が、チャレンジ精神旺盛だった当時の私に突き刺さったということはもちろんですが、複数の職員との会話を通じて、総務省の雰囲気自分が合うと“直感”できたということが決め手となりました。

Q これまでで、もっとも印象に残った
業務を教えてください。

入省以来、手応えのある業務を多く経験させていただいているので、一つに絞るのが難しいのですが、自治財政局係長時代の東日本大震災への対応は強く印象に残っています。東北地方を中心に甚大な被害が生じ、復旧・復興に要する経費が巨額になることが見込まれたため、発災当日からどのような対応が必要か検討に着手し、政府を挙げて様々な特例措置が講じられることになりました。未曾有の大災害への対応に政府の一員として携わり、微力ながら被災者の方々の一助になれたことは、国家公務員だからこそできた仕事だと少しばかり誇らしく感じたことを覚えています。

Q 地方自治体出向時の経歴
(仕事・私生活)を聞かせてください。

初めての地方出向である鹿児島県では、県庁職員だけでなく市町村職員の方々と公私にわたり濃密に交流させていただきました。仕事のやり方だけではなくお酒の飲み方から休日の過ごし方など社会人として基本的なことを多く教わり、私の仕事、私生活の基盤となっています。

2回目の地方出向は川越市で、財政部長を任じられ財政部の6課130名の職員を率いる立場となりました。組織を率いていくことの難しさを感じつつも、優秀な職員と一緒に課題解決に取り組んだことは、かけがえのない経験となりました。

Q 現在の役職について、係員時代と比べてどんな違いがありますか？また、お仕事をする上で心がけていることはありますか。

役職が上がってくると所掌する業務が広がり、部下も含めたチームとして成果を出すことが求められます。一方で、係員は基本的には自分の担当業務に集中していればいいので、このあたりは大きく違う部分だと思います。チームで仕事をする上で大事なことは、メンバー全員が気持ちよく働けて、持てる能力を十分に発揮できるような環境を整えることです。上司と部下の関係には一定の緊張関係は必要だと思いますが、風通しよく、気軽に相談や報告ができることも非常に大切だと考えています。人それぞれ個性があり画一的な解があるわけではないので、各個人の個性をよく見極めて接するように心がけています。

Q 地方自治分野の魅力・やりがいについて
教えてください。

総務省職員は国と地方、双方の立場で仕事をできるというのが何よりの魅力だと思います。国では国全体に関わる政策の企画立案を行いますので、非常にダイナミックな仕事ができます。一方で、地方では地域の実情をよく見極めて行政運営を行いますので、地域に密着した仕事ができます。国と地方を行き来する経験が、自らのスキルアップに繋がるということが実感できると思います。

また、総務省には自治体から派遣されている職員も数多くいるため、一緒に働いていく中で全国に仲間ができるというのも、魅力だと思います。

Q 受験者へのメッセージをお願いします。

受験者の皆さんにとって、どの省庁で働くかというのは大きな選択であり、迷う人もいるかと思いますが、私は“直感”を信じるのも良い方法の一つではないかと考えています。まずは興味のある省庁に官庁訪問し、職員や職場の雰囲気を感じ取ってみてください。そこで自分がどう感じたか、一緒に働きたいと“直感”できたかどうか、自分の心に聞いてみてください。ちなみに、私が官庁訪問の際に感じ取った“直感”の先には、やりがいのある仕事、尊敬できる上司や先輩、気が置けない同僚や仲間、優秀な部下や後輩などとの出会いがありました。皆さんの“直感”の先には何かがあるでしょうか。総務省で皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています！



CAREER PATH

2001年

総務省大臣官房会計課

入省。総務省の予算編成を担当する予算総括係から国家公務員生活がスタート。国家予算の編成過程を経験。

2003年～2004年

鹿児島県総務部地方課

初めての地方勤務。県内市町村の起債協議、決算統計などを担当。多くの人(現在の妻も含む)との出会いに恵まれ、公私ともに人生の基盤となる。

2007年～2008年

自治体国際化協会ニューヨーク事務所
所長補佐

念願であった海外勤務が実現。米国の地方行財政調査などを担当。日本の地方自治制度への想いがより強まる。

2009年～2013年

総務省自治財政局調整課、地方債課
係長

地方財政に関する関係省庁との調整や地方債制度を担当。東日本大震災が発災し、震災復興特別交付税の創設に携わる。

2013年～2015年

地方公共団体情報システム機構(J-LIS)
個人番号プロジェクト推進部課長補佐

全国民にマイナンバーを付番するという一大国家プロジェクトに携わる

2019年～2021年

川越市財政部長

これまでの経験を総動員して、台風災害、コロナ禍への対応や行財政改革推進計画の策定などに奔走。

2023年～現在

総務省自治行政局住民制度課課長補佐

マイナンバーカードの基盤となる住民基本台帳制度を担当。デジタル用語も飛び交う中、日々勉強の毎日。



デジタル時代のキャリアデザイン

情報流通行政局衛星・地域放送課地域放送推進室長

金子 創 KANEKO HAJIME

情報通信
(ICT)

Q 総務省への入省を志したきっかけを教えてください。

国や地域に役立つ仕事に携わりたいというのが始まりです。最終的に、ローカルからグローバルまでを扱う国の業務の拡がり、行政官としての自分の将来に幅広い可能性を与えること、また、全国から多様な人材が集まる職場なら自分もキャリアアップできるはず、と少々都合の良いことを考えました。情報通信行政を選択したのは、やはり「高い将来性」を感じたから。現在のデジタル社会を見通していたかと問われると甚だ怪しいですが、結果として、選択は間違っていなかったと実感しています。

Q これまでで、もっとも印象に残った業務を教えてください。

入省から3年を経てメキシコに留学しスペイン語を習得、その縁で、南米ニカ国の日本大使館に勤務しました。情報通信の国際的な拡がりを実感させられるとともに、世界から日本を眺め、改めて日本を知る良い機会となりました。また、複雑化する通信サービスの利用者からの声を直接伺い、通信事業者を巻き込み利用者目線に立つて契約トラブルの解決に取り組んだことも印象深いものです。一方で、いずれのポジションにあっても、職場の内外を問わず尊敬できる素晴らしい人との出会いは仕事の励みとなり、また、一緒に仕事に打ち込んだ仲間との絆は宝物です。

Q 現在の携わっている業務について教えてください。

放送行政に携わっています。私の室は、12人のチームにより、ケーブルテレビとコミュニティFM放送分野を担当しています。実は、日本の世帯の半数はケーブルテレビによりテレビ放送を視聴し、また、市町村の限られたエリアにおいて提供されるコミュニティFM放送局は、全国に約340局存在し、地元密着の情報を発信しています。放送は、国民の「知る自由」を保証し、「社会の基本情報」の共有といった重要な機能を有しています。日本各地に放送サービスが提供され、地域住民が必要とする情報に触れられるよう、放送の社会的役割の維持・発展に取り組んでいます。

Q 情報通信分野での総務省の役割を教えてください。

スマホなしの生活って考えられますか？皆さんの生活に留まらず、社会全体が情報通信に深く依存し、その技術も急速な進歩を重ねるなかにあって、総務省は、国民一人一人が、安心・安全で快適に、そして最先端のサービスを受用できるような環境作りに取り組んでいます。フェイクニュースや個人情報保護、サイバーセキュリティといった新たな課題への対応、更に、情報通信が持つポテンシャルを経済成長や社会変革(DX)に繋げる、こういったものも総務省の重要なミッションになります。

Q 情報通信分野でのやりがいについて教えてください。

新型コロナウイルスの流行により、リモートによる日常生活の実現が課題となり、それを支えたのも情報通信技術です。担当者としてブロードバンドの整備促進に取り組みましたが、その成果が活かされた実感できた瞬間でした。世界各国がしのぎを削り、今後も急速な発展が見込まれる情報通信技術。ポータルなプラットフォームサービスの普及やデジタル技術の社会への浸透、AIの急速な進化、リアルとバーチャルの融合が進むなか、新しい技術やサービスがもたらす影響は、ときに新たな社会課題を生じさせるなど、情報通信行政には新たな事象にチャレンジする機会も多く、そこに多くのやりがいと自己成長を実感できる要素があると思っています。

Q 受験者へのメッセージをお願いします。

私は、いわゆる「バブル入社(入省)組」で、よくネタになる、ディスコで踊り(私は踊れない)、24時間働けますか(これは近い)の時代に入省し、失われた30年といわれる時間を生きてきた訳ですが、振り返るに、情報通信技術は大いに発達し、社会のデジタル化が急速に進むなかで、自分もキャッチアップを迫られ、勉強をし(学生時代よりかも?)、(何とか)時代に取り残されことなく、今に至ったと感じています。VUCAの時代を生き抜く素材に事欠かないのが情報通信分野の特徴。時代に相応しい自分をデザイン出来る、そんな職場だと思います。ネット情報のみをアテにせず、是非、我々スタッフと言葉を交わして総務省を知って頂けると嬉しいです。



CAREER PATH

1991～1993年

郵政省電気通信局電気通信事業部
データ通信課

新規参入電気通信事業者の提供する企業向け通信サービスの契約約款審査に従事。

1994年～1995年

日墨交換留学

日墨交換留学生として、メキシコ・グアダハラ大学に留学しスペイン語を習得。

1999年～2002年

在パラグアイ日本国大使館
二等書記官

経済協力担当として、通信のほか、農林業や医療保険、教育分野などの二国間協力事業を推進。

2007年～2011年

総合通信基盤局電気通信事業部
高度通信網振興課課長補佐・
高度通信網推進官

全国的なブロードバンド整備の促進に携わる。光ファイバ整備促進のための振興法の改正にも従事。

2011年～2014年

在ブラジル日本国大使館一等書記官

経済担当として、ブラジル・南米地域における地デジ日本方式の推進、また、デジタル分野における日本企業の進出を支援。

2016年～2018年

総合通信基盤局電気通信事業部
消費者行政第一課消費者行政調整官

通信サービスの契約における利用者のトラブルの回避、解決を支援。通信事業者の適切な営業活動の実施を促進。

2021年～2022年

北陸総合通信局情報通信部長

北陸地域における、通信・放送サービスの適正な提供の確保を行うほか、地域のデジタル化やDXの取組を支援。



行政評価局政策評価課専門職

高橋 大樹 TAKAHASHI DAIKI

平成22年 4月 総務省採用
関東管区行政評価局総務部総務課
平成23年 4月 長野行政評価事務所評価監視官付
平成25年 4月 長野行政評価事務所評価監視調査官
(長野行政評価事務所行政相談課行政相談官併任)
平成27年 4月 行政評価局政策評価課
平成29年 4月 行政評価局評価監視調査官
(人事院事務総局人材局研修推進課付併任)
(命 行政官国内研究員)
平成31年 4月 大臣官房総務課情報公開・個人情報保護係長
(大臣官房総務課公文書監理室主査併任)
(大臣官房政策評価広報課(渉外係)併任)
令和 3年 4月 行政評価局評価監視調査官(厚生労働等担当)
令和 4年 8月 (行政評価局政策評価課併任)
(行政評価局政策評価課客観性担保評価推進室併任)
令和 5年 4月 現職



行政評価局企画課総括係長

阿部 千晶 ABE CHIAKI

平成24年 4月 総務省採用
行政評価局総務課政策評価審議室
平成25年 4月 統計局統計調査部経済統計課企画第一係
(統計局統計調査部経済統計課研究分析係併任)
平成27年 4月 関東管区行政評価局第一部評価監視調査官
平成29年 5月 (関東管区行政評価局第二部評価監視調査官併任)
平成29年10月 行政評価局評価監視官付(内閣、総務等担当)
平成31年 4月 消防庁国民保護・防災部防災課防災企画係長
令和 元年 7月 政策統括官付統計審査官室主査(人口・社会・農林水産統計担当)
令和 2年 4月 育児休業
令和 3年 4月 政策統括官付統計審査官室主査(経済統計担当)
令和 5年 4月 現職

洗練された政策の展開を目指して クリエイティブな仕事、あります。

国の行政機関は、「政策評価法」に基づき、自らが所掌する政策の効果を把握し、それを評価することとされています。法の施行から20年以上が過ぎ、政策評価制度は広く浸透した一方、課題も見えてきました。

例えば、有効性の把握もその1つです。政策評価を行う上で、政策がどの程度効いたのかという視点は極めて重要ですが、複雑かつ急速に変化する社会の中で、その効果を特定することは容易ではありません。このため、効果検証手法の確立が求められています。

現在、私は政策評価課の一員として、この効果検証手法の開発に取り組んでいます。具体的には、ロジックモデル(政策が効果をあげるまでの因果関係を論理的に示した説明図)の作成、データの収集、定量的な分析などを行っています。今はまだ試行的な段階ですが、近い将来、こうした取組が定着し、政策の効果を見極めた上で、今以上に洗練された政策が展開されるよう日々業務に取り組んでいます。

成長し続けられる職場、あります。

「常識」や「価値観」は、時代の流れと共に移り変わります。それまで見落とされていた事柄が新たな社会課題として認識されたり、長年の課題に意外な解決方法がもたらされたりします。このため行政には、社会の変化を察知し、時代に適した形で自らを変化させていくことが求められています。

特に、国家の基盤と人々の暮らしを支える総務省の職員には、社会の変化を敏感に察知するセンサーとしての役割や、変化を引き起こす原動力としての役割が期待されています。こうした期待に応えるための力は、日々の業務を通じて身につきますが、私の職場では、これに加えて、若手職員による有志の勉強会が開催されています。勉強会では、「政策のあるべき姿」や「政策効果の分析手法」に関する議論が繰り広げられており、新たな知見を習得できる場となっています。社会の変化に迅速に対応するため、自らも日々変化していく。成長し続けられる職場が総務省にはあります。

Q 総務省を志望するようになったきっかけは何ですか？

大学時代に地方自治体が住民の声を行政運営に反映させていることを学びました。国の行政機関でも同様の取組が行われているのだからと考えていたところ、総務省の「行政相談」が国民からの相談を受け付け、行政運営の改善に役立っていると知り、興味を持ったのがきっかけです。

Q 総務省の魅力は何ですか？

「活躍の場の広さ」があげられます。私の場合、行政相談業務で様々な市町村を訪れ、地域の方々と一緒に地域の課題について議論する機会に恵まれたほか、政策評価制度の企画立案業務で諸外国の政府職員と意見交換する機会に恵まれました。このように、活躍の場はローカルなものからグローバルなものまで幅広く用意されていますので、好奇心旺盛な方にオススメです。



政策評価に関する海外調査での一コマ

PRIVATE TIME

趣味は「登山」です。長野で勤務していた際には、毎週末のように山へ行っていましたし、東京に異動してからも、度々同期と登山に出かけています。最近の夢は、娘が大きくなったら一緒に山に登ること。私が感動した景色(湖沢カールから見るモルゲンロート、尾瀬ヶ原に舞うホタル・・・等々)と一緒に見たいと思っています。



力を合わせてよりよい国づくりを 様々な視点で見る

行政評価局では、国民に信頼される質の高い行政の実現のため、いわば政府のレビュー機能として、「①政策評価の推進」、「②行政運営改善調査」、「③行政相談」の3つの機能を担っています。

私の所属する企画課では、行政評価局の全てに関わる様々な業務を担っており、「①政策評価の推進」と「②行政運営改善調査」について審議を行う政策評価審議会の運営や、「②行政運営改善調査」に関するテーマ企画や支援、さらに、「①政策評価の推進」、「②行政運営改善調査」、「③行政相談」の全てを含めた、局全体の業務運営方針の策定などを行っています。

業務に当たっては、例えば「②行政運営改善調査」について各調査内容を細かく見る必要があれば、局としてどのような動きがあるのか全体像を見ることも必要となります。国民を支える行政、その行政を支える行政評価局、その行政評価局を、多様な視点から支える役割を果たしていると感じます。

変化のまっただ中！

みなさんは「評価」という言葉から、どのようなイメージが浮かぶでしょうか。広辞苑には、「評価」とは「善悪・美醜・優劣などの価値を判じ定めること」と書かれています。行政評価局の業務は、各府省の行っている政策等の問題点を見つけ改善を図る、というもので、従前は、各府省の問題点を指摘することに重きが置かれており、まさに善し悪しについて判じる「評価者」「監督者」としての視点が強いものでした。

しかし、今後は、そのようなやり方は見直し、単にできていないことを指摘するのではなく、各府省の政策効果を的確に把握・分析し、政策効果を上げるために有益な情報を提供できるような、各府省にとって役立つ取組を行っていく、という方向へ舵を切っています。

どうしたらよくなるのか常に考え、柔軟に変化しながら進んでいく総務省の業務は、とても楽しくてやりがいがあります。ぜひ、興味を持っていただくと嬉しいです。

Q あなたが実践する「働き方改革」とは？

可能な限りテレワークを実施しています。日中はこどもを保育園に預けていますが、テレワーク時は通勤時間がない分、出勤時よりも保育園のお迎えや夕食の準備などが早くでき、心身ともに余裕が出ると感じます。ただ、テレワークのために職場の人と意思疎通しづらくなる、といったことがないよう、Web会議機能等の便利なツールはどんどん活用し、円滑に業務が進むよう努めています。

Q 仕事をする上で心がけていることはなんですか？

常にアンテナを張り、広い視野を持つよう心がけています。職場で打合せや議論をしていると、そういう見方もあるのか、その発想はなかったな、と感じることが多々あります。思考停止せず、多角的に物事を考えられるようになりたいと思っています。



テレワーク中にWeb打合せの様子

PRIVATE TIME

休日は基本的にいつも娘(3歳)と遊ぶことが中心となっていますが、たまに、近所に住んでいる私の両親に娘を預けて、茶道のお稽古に通っています。普段とは全く違う空間で、自分のための時間を過ごし、おいしいお茶やお菓子も楽しみながら心のリフレッシュをしています。





統計局統計調査部経済統計課科学技術研究調査係長
丸井 美奈子 MARUI MINAKO

平成17年 4月 総務省採用
統計局統計調査部消費統計課物価統計室小売物価調査係
平成20年 4月 独立行政法人統計センター製表部企画課
平成22年 4月 内閣府青年交流第3担当主査付
(政策統括官(共生社会政策担当)付参事官(青年国際交流担当)付)
(子ども・若者子育て施策総合推進室室員併任)
平成24年 4月 統計局統計調査部消費統計課研究分析係長
平成27年 4月 統計局統計調査部経済統計課研究分析係長
平成29年 1月 統計局統計情報システム課統計情報企画室情報企画係長
(業務支援係併任)
平成29年 4月 統計局統計利用推進課情報企画係長
(業務支援係併任)
(地方業務支援係併任)
平成31年 4月 統計局統計情報利用推進課業務支援係長
(総務課併任)
(統計データ活用センター主査併任)
令和 5年 4月 現職



統計局統計調査部経済統計課経済センサス室統計専門職
鴨志田 世勝 KAMOSHITA TOSHIMASA

平成23年 4月 総務省採用
統計局総務課用度係
平成24年 8月 大臣官房会計課
(大臣官房会計課予算執行調査室室員併任)
平成26年 7月 統計局統計調査部国勢統計課企画係
平成28年 4月 財務省主計局厚生労働第三係
平成30年 4月 大臣官房秘書課主査
令和 2年 4月 統計局総務課統計専門職
令和 3年 5月 統計局総務課予算係長
令和 5年 5月 現職

様々な場面で利用される統計調査 思った以上に幅広い業務

私は現在「科学技術研究調査」を担当しています。この調査では企業等の研究活動の実態を把握し、日本における科学技術研究費や研究者数等の調査結果を提供しています。少し前に話題になった言葉に「リケジョ」がありますが、調査結果によると女性研究者の割合は年々上昇していることがわかります。また、国際基準に準拠した調査項目になっていますので、調査結果を国際比較することもできます。主な業務としては、調査の企画・設計、調査結果の公表を行っています。海外のサイトの確認や国際機関からの照会対応も行います。具体的には、調査用品の作成、調査実施中の調査対象からの質問対応、報告書の作成、調査結果に関する問い合わせ対応、他省庁との調整、国際機関へのデータ提供等、調査の規模は小さいながらも幅広い業務を経験できます。これらの業務を担当内で分担し、こまめに情報共有を行いながらより良い調査となるよう日々協力して進めています。

なくてはならないもの

和歌山の統計データ活用センターでは、地域課題に統計データを活用して支援を行う事業や民間企業向けの統計セミナー等を担当していました。同じフロアに和歌山県庁の方も勤務されていたので、県と連携してイベントを共催する等、地方創生に貢献する取組みも経験することができました。地方公共団体の方々と意見交換を行う機会も多く、人口減少対策や街づくり、空き家対策等の施策に様々な調査結果が利用されていることを伺いました。また、企業の方へのヒアリングの際に、頻りにe-Stat(政府統計の窓口)を使っていますとお聞きし、市場分析や将来予測等に統計調査の結果を利用している事例を教えてくださいました。行政運営やビジネスにおいて調査結果が広く役立てられていることを実感し、改めて、統計調査はなくてはならないものであるということ強く感じると同時に、あるべき姿を正確に捉えて国民の皆様へ還元することの重要性を実感しました。

Q これまで携わった仕事で達成感があった仕事は何ですか？

「科学技術研究調査」では、毎年5月に調査票の配布を行い、提出された調査票を集計した後、12月に調査結果を公表しています。回答者の皆様から届いた調査票一枚一枚が調査結果として集計され公表され国民の皆様へ届けられることは、多くの方と協力して進めてきたことが成果に繋がる瞬間であり感慨深いものがあります。

Q 就職活動を行う人に対してメッセージをお願いします。

統計調査は、ご回答いただく方々を始め、地方公共団体の方々、調査員の方々、その他多くの方々のご尽力があって初めて調査結果を公表することができます。また、調査結果は誰もが利用することができます。多くの方と作り上げて多くの方の役に立つ統計調査、少しでも興味がありましたらぜひ総務省を訪れてみてください。



インターンシップ生との交流

PRIVATE TIME

カフェ巡り、観光、コンサート鑑賞等を楽しんでいます。なるべく頭を空っぽにしてリフレッシュするようにしています。和歌山にいた頃カフェが多いなと思っていたのですが、経済センサスの調査結果によると、和歌山県の「喫茶店」の都道府県別人口1千人当たり事業所数が上位にランクインしていました。



知っていますか？統計局の仕事 「統計」は国家の羅針盤

今まで幅広い業務に携わらせていただきましたが、現在は経済センサス-活動調査という調査の企画業務を担当しています。日本の全ての事業所を対象としているため、その規模の大きさや内容の複雑さに日々戸惑いつつも、この調査が将来世の中に対してどんな影響を与えるか、どんなふうに関わるのかを考へながら働いています。世の中に大量の情報が溢れ返るビッグデータの時代においては、数ある情報の中からどのようにして新たな価値を創造できるかが問われているのだと思います。その中で、信頼に足るデータを正確かつ迅速に利用者が使いやすい形で提供していくという統計局の仕事はまさに「縁の下の力持ち」だと思います。「統計が乱れると国が乱れる」。そうならないように目の前にある課題に対して愚直に、時には大胆に取り組んでいくことができる組織です。興味をお持ちの方は是非一度総務省の説明会に足を運んでみてください。

自己成長できる環境

自分が入省してから10年以上が経ちますが、入省当時と今とはかなり状況が変わっている気がします。業務はどんどんデジタル化、効率化され、テレワークやフレックスなどの働き方も当たり前になりました。一方で統計という仕事は、過去脈々とやってきた統計調査をこれからも続けていくという観点でみると少し前例踏襲に陥りがちな性質があると思います。しかし、日々めまぐるしく変化していく時代に、淡々と今まで通りの方法で調査を行ったのでは時代錯誤で非合理的な内容になるのは明らかです。これから統計局で働かれる方々には、その時代におけるニーズに対応することができる「しなやかさ」が求められていると思います。そう聞くとなんだが大変そうと思われるかもしれませんが、統計局は職員に対する研修も非常に充実していますし、頼りになる上司や同僚がたくさんいます。自分のやる気次第で、楽しみながら働いて自己成長もできる職場だと思います。

Q 今までに一番印象に残った仕事はなんですか？

国勢調査の企画の仕事です。全国の地方公共団体の職員の方々と調査員の方と協働して調査を行っていくことは非常にエキサイティングでやりがいを感じました。無事に調査を終えたあとの「やり切った」という満足感に溢れた職場の雰囲気は今でも忘れられません。現在担当している業務でも当時と同じような、むしろそれ以上の経験が出来るようにこれから全力でやってみようと思っています。

Q 仕事をする上で心がけていることはなんですか？

できるだけ苦手な分野を作らないことを意識しています。少しでも知識があったり、得意な業務に対しては良いアイデアがどんどん湧いてきて作業も捗り楽しくなってきます。ですので、どんな仕事でもまずは逃げずにやってみて、その中から少しでも知識や経験値を吸収しようと考えています。



統計局から見える新宿の風景

PRIVATE TIME

学生時代はずっとサッカーをしていたので土日は職場の同僚たちとフットサルの大会によく出ていました。ただ、最近は年のせいかわれなくなってきたのもあって体力があまり必要ないダーツにハマっています。下は係員から上は管理職まで幅広い世代の同僚や先輩たちとお酒も飲みながらワイワイ楽しんでいます。





自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室

寶田 萌音 TAKARADA MONE

平成31年4月 総務省採用
自治大学校務課
令和2年4月 同 自治行政局公務員部福利課
令和3年4月 三重県デジタル社会推進局デジタル戦略企画課
令和4年4月 同 地域連携部市町行政課
令和5年4月 現職

地方と繋がれる場所

地方を支える「人」の育成

近年、地方自治体では、DXへの対応や感染症・大規模災害をはじめ、さまざまな行政課題が多様化・複雑化しており、地方公務員に求められる能力も日々変化・高度化しています。

今後、少子高齢化により若年労働力が減っていく中、地方自治体で複雑・多様化する課題を解決し続けるためには、リスキングを通じた新しい知識の獲得をはじめとした、地方自治体を支える人材の育成等にこれまで以上に取り組むことが必要です。

今年度は、総務省が地方自治体に対して示している人材育成の指針を26年ぶりに改正し、地方自治体が戦略的に人材育成・確保等を行うことができるように支援する作業を行っています。

思い入れのある場所を増やす

総務省の大きな魅力の1つは、職員それぞれが、自分が出向した県に対して非常に強い思い入れを持っていることです。

官庁訪問で、出向先での印象深い業務や、出向先で得た人とのつながりについて熱心にお話される先輩が多く、自分もこんなに熱い思いを持って語れる場所が欲しい!と感じ、入省を決めました。

二年間三重県への出向を経験し、個別の自治体の財政状況がどうなっているか、自分が総務省にいた際に携わった制度が、実際どのように運用されているかを学びました。出向で個別の自治体の実情を知ったことをきっかけに、国全体のマクロの視点だけでなく、個別の自治体はどうなっているのかという、ミクロの視点で物事をもっとよく見てみようと考えようになりました。私を成長させてくれた三重県はとても大切な場所です。県でお世話になった職員とは未だに交流が続いています。

皆さんも総務省で一緒に働き、思い入れのある場所を増やしてみませんか。

とある一週間

月曜日	今週末開催する研究会に向けて、資料の調整を行います。
火曜日	地方における人材育成の課題について、自治体にオンラインでヒアリングを行います。
水曜日	専門家の先生と打ち合わせ。官民を通じた人材育成の優良事例やトレンド等を教えていただきます。
木曜日	研究会を開催。自治体からの事例発表を踏まえて、活発な議論が交わされました。
金曜日	研究会で指摘があった点について、対応案を検討し、上司に相談します。



三重県での配属先の職員のみなさんと

PRIVATE TIME

カレーが大好きで、家でゆっくり時間をかけてスパイスからカレーを作ったり、本格的なインド料理店をめぐっている時間が最高の癒やしです。最近は友人や家族を誘って、南インドの伝統的な料理であるミールス(お米・カレー・副菜の定食料理)を提供するお店を探して食べ歩いています。夏期休暇等を利用し、いつか南インドに行ってみたいです。



自治財政局地方債課資金係長

高瀬 弘隆 TAKASE HIROTAKE

平成29年4月 総務省採用
消防庁消防・救急課
平成30年4月 同 自治財政局公営企業課準公営企業室
平成31年4月 群馬県総務部市町村課
令和2年4月 同 産業経済部地域企業支援課
令和3年4月 総務省自治財政局財政課
(自治財政局財政課復興特別交付税室室員併任)
令和5年4月 現職

日常生活を支える「地方債」

地方債は「縁の下の力持ち」

突然ですが、みなさんは「地方債」ってご存じでしょうか。「国債」ならご存じの方はいても、「地方債」の内容をご存じの方はあまりいらっしゃらないのではないのでしょうか。私はいまこの「地方債」に関する業務を担当していますが、少なくとも入省するまで聞いたことがありませんでした。

地方債は、平たく言えば、地方団体が建物を建てるために借るお金のことで、日常ではなじみがなく、目立たないのですが、実は、国の補助金などと合わせて、学校やごみ処理施設、水道・下水道など住民生活に必要な施設・インフラの多くがこの地方債を活用して建設されています。いわば「縁の下の力持ち」的な存在です。

地方債に限らず、入省してから、自分がこれまで知らなかった分野に出会う方もいらっしゃると思いますが、総務省の業務は、日常生活に密接に関連しているので、イメージしやすく、業務にやりがいを感じられることが多いと思います。

暖かく、活気に満ちた職場で

私の職場は、暖かく、活気があります。これは、地方団体から来られている方が非常に多いからだだと思います。体感では、職場の半分くらいは地方団体から来られている方々なのではないかと感じます。自分と生まれや育ちが全く異なる方たちばかりなので、お話を聞くだけでとても面白いです。プライベートで一緒に遊びに行ったりすることもよくあります。

また、これまで職場で関わった方たちを見ると、オンとオフの切り替えが上手く、休日もツーリングや山登りなど、活発に外に遊びに行かれている方が多いように感じます。休日の過ごし方は人それぞれですし、私自身、学生時代は比較的、家で過ごしがちでしたが、周りの方々の影響を受けて、今はなるべく休日も外で新しいことをしてみようと思うようになりました。

みなさんもぜひ、このような活気のある職場で一緒に働いてみませんか。

Q 総務省を志望した理由は何ですか？

地方団体への転職があること、説明会の場で職員の方々が生き生きとされていたこと、幅広い分野の業務に携われそうだなと思ったことが理由です。

特に最後の点については、予想以上でした。他の省庁の方々とよく仕事を行う機会があり、まだキャリアの浅い私でも、既に財務省、金融庁、厚生労働省、警察庁などかかわりがあります。本当に幅広い分野の業務に携わっていると感じています。

Q 国家公務員(総務省)の魅力は何ですか？

業務の範囲が非常に広く、地方団体や関係省庁の方々など、多様な方々と仕事で接点があるため、日々刺激を得られるのが大きな魅力だと思います。もし、入省してから業務にやりがいを持てるか不安に思う方がいらっしゃっても、心配いらないと思います。



休日に車で千葉県の観光地へ

PRIVATE TIME

総務省で知り合った友人と遊びに出かけたりしています。先日は、恐らく10年、いや20年ぶりに、真剣にフリスビーを投げ合って遊びました。家族などで遊ぶのは見かけますが、大人同士というのはやや珍しいですね(笑)。ちなみに、私が圧倒的に一番下手だったので、次回開催までに腕を磨きたいと思っています。





自治税務局企画課調査第二係長
立川 智美 TACHIKAWA TOMOMI

平成29年 4月 総務省採用
大臣官房会計課
平成30年 4月 同 自治行政局地域政策課国際室
平成31年 4月 埼玉県企画財政部市町村課
令和 3年 4月 総務省自治行政局選挙部政治資金課支出情報開示室
令和 4年10月 同 自治税務局企画課
令和 5年 4月 現職

地方のために私たちが出来ること 自治体の実情に見合った制度作り

今の部署では、主に地方譲与税の算定業務を行っています。地方譲与税は、国税として一度徴収した税金を、様々な基準を用いて地方へ譲与する仕組みであり、地方自治体にとって貴重な財源となっています。中には航空機燃料譲与税のように、使い道が限定されている性質を持つものもあり、地方自治体の財政需要が反映されるような制度作りが求められています。

今年度は、航空機燃料譲与税の譲与に用いる基準の見直しを行いました。航空機燃料譲与税が創設されて以来に生じた課題等を踏まえ、地方自治体の財政需要を譲与税算定により適切に反映出来る基準そのものの検討に加え、地方自治体への調査等を通して実情を把握した上で、改正による地方自治体の財政需要に与える影響が少なくなるような仕組みも検討し、制度の改正に至ることが出来ました。

実際の運用は翌年度からになりますが、大きな改正に携われたことに達成感を感じています。

入省前の期待と今思うこと

就職活動をしていた頃の私の第一希望は地元の自治体でした。総務省とその自治体のどちらに進むべきか非常に悩みましたが、最終的に総務省を選んだ理由は、より多くの自治体のための制度作りに携わること、俯瞰的な視点で地元のためにも動くことが出来るのかもしれない、という漠然としたイメージに期待が膨らんだこと、入省前に業務説明等の機会職員の方の仕事に対する思いを聞き、一緒に働いてみたいと興味湧いたためです。

入省してから感じていることは、大きなスケールの仕事に携わりながらも、地方公共団体の実情を細かく調べて制度に活かそうとする姿勢を皆が持っている点です。

また、地方自治分野の職員は出向を通して心のふるさとは出来、その「ふるさと」を含む地方自治体が行政運営をしやすくなるように、という思いを強く持ちながら、それぞれの持ち場でよりよい制度作りのために検討・分析を進めている方が多いと感じています。

とある一週間

- 月曜日** 午後の会議に向けて資料の印刷や会場の準備をし、会議後は議事録を作成します。
- 火曜日** 各課に照会していたデータが取りまとまったので、疑義を担当者へ確認します。
- 水曜日** 新譲与基準について、案を細かく調整しながら検討を進めます。
- 木曜日** 課長に昨日作成した案を諮り、指摘を踏まえて案を再調整します。
- 金曜日** 譲与税算定当日！数値や数式を確認しながら素早く慎重に作業を進めます。



譲与税の用途について、実態調査中…

PRIVATE TIME

美味しい物を食べたり、旅行や日帰り温泉へ行ったりと心身をリフレッシュさせることに専念しています。一番のリフレッシュ方法は、好きなアーティストのライブに行くことです！同期とも入省当初から仲が良く、楽しい思い出がたくさんあります。プライベートも仕事面も相談に乗ってもらえるので、非常にありがたい存在です。



消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室消防団係長
併任 消防団加入促進係長

山下 剛史 YAMASHITA TAKESHI

平成22年 4月 総務省採用
消防庁総務課
10月 同 自治行政局選挙部政治資金課収支公開室
平成24年 4月 千葉県総務部税務課
平成25年 4月 同 総務部市町村課
平成26年 4月 総務省大臣官房会計課
(大臣官房会計課予算執行調査室室員併任)
平成28年 4月 同 自治税務局都道府県税課問税第二係長
平成30年 4月 同 自治税務局都道府県税課調査係長
(自治税務局都道府県税課自動車税制企画室室員併任)
(自治税務局市町村税課併任)
平成31年 4月 同 消防庁総務課主査
令和 2年 3月 外務省在インド日本国大使館二等書記官
(在プーチン日本国大使館併任)
5月 (アジア大洋州局南部アジア部南西アジア課併任)
令和 5年 4月 現職

地方を支える一翼に 安全・安心な地域づくり

消防庁は、地方公共団体や全国の消防本部等と連携し、救急、救助、火災予防、地域防災などの消防行政を担っており、私が所属する地域防災室では、消防団や自主防災組織等に関する業務を所管しています。

消防団と聞いて、「消防士が集まった団体？」と思う方もいるかもしれませんが、消防団は、消防士とは違い、普段は学生や会社員のような方々が、火災や地震等の災害時にいち早く駆けつけ、消火、救助、避難誘導等の災害対応にあたるなど、地域住民の安全を守るという重要な役割を担っています。

近年、豪雨などの災害が頻発化・激甚化し、各地で甚大な被害が発生している一方で、地域を支える消防団員の数は、人口減少や高齢化などを背景に年々減少しており、団員確保など消防団の充実強化が不可欠となっています。

このため、地域防災室では、女性や学生等の入団促進のための広報をはじめ、消防団の処遇改善、装備の充実など、消防団の充実強化に向けた様々な施策を実施しています。

想いを大切に

私が仕事をする上で大切にしていることは「三現主義」です。「三現主義」とは、机上ではなく、実際に「現場」で「現物」を観て、「現実」を認識した上で、問題解決を試みるという考え方です。

霞ヶ関では、あらゆる施策が日々猛スピードで議論されますが、現場である地方の実情を知らずして良い議論は出来ません。リモートワークなどIT化が進んだ現在でも、地方に直接足を運び、現地の方の話を聞くことで得た現場の課題を施策に反映することが最も重要なことだと思っています。

総務省では、自治体への出向等を通じて地方自治の現場を経験し、さらに、全国各地の自治体から派遣された職員の実務経験を参考にしながら、地方のため、日本の未来のために日々施策等について議論しています。

「地方のために」と高い志を持つ方は、その想いを胸に、是非その実現に向けて一緒に働けたらと思います。

Q これまで携わった仕事で達成感があった仕事は何ですか？

これまで最も印象深かった仕事は、自動車税制の抜本的な改正に携わったことです。当時は、消費税率10%への引上げによる自動車需要の冷え込みを抑えることや、国内自動車市場の活性化等を目的として、自動車税・軽自動車税の税率などの見直しを行いました。

見直しに当たっては、地方の財源となる地方税収への影響を考慮し、連日夜遅くまで対応に追われましたが、税制改正の内容が閣議決定された時には、大きな喜びと安堵を感じました。

Q 自治体や海外での赴任経験が総務省の業務に活かした経験はありますか？

在インド日本大使館での3年間の赴任を終え、2023年4月から消防団の業務を担当していますが、消防団の海外研究等のため、海外の方とのやり取りや海外出張する機会を与えられました。まさか地域防災を所管する超ドメスティックな部署で、海外赴任で培った語学力等を活かせるとは思っていませんでした。



休日にインドの屋台で同僚と朝食

PRIVATE TIME

ここ数年でキャンプにどハマリし、時間が有れば週末家族でキャンプに出かけています。自然豊かな場所で食事を楽しみながら、ゆったりと過ごしています。また、最近は観葉植物にも夢中になっています。特に多肉植物のキュートでユニークの形や種類の豊富さに魅了され、植物が日々生長する姿に癒やされています。





総合通信基盤局電気通信事業部利用環境課
黒田 凜奈 KURODA RINA
 平成31年 4月 総務省採用
 情報流通行政局衛星・地域放送課地域放送推進室
 (内閣府大臣官房消費価格転嫁等相対対応官総務省分室室員併任)
 令和 2年 4月 情報流通行政局衛星・地域放送課
 令和 3年 7月 大臣官房秘書課
 令和 5年 7月 現職

安心安全な通信環境を目指して 通信の不正利用防止

私は現在、特殊詐欺等の防止に関する制度の企画・執行を担当しています。“詐欺対策は他省庁の業務では?”と思う方もいらっしゃると思いますが、総務省では、通信事業の振興に限らず、特殊詐欺、誹謗中傷、Cookie規制や通信の秘密をはじめとした利用者情報の保護等、通信の安心安全な利用環境の整備にも取り組んでいます。

近年、特殊詐欺を取り巻く状況は、被害額の急増のみならず、手口の多様化、闇バイト等により犯罪者を生みやすくなるなど課題は複雑化しています。特殊詐欺では、被害者に接触する通信手段の1つとして電話が用いられています。そこで、私の所属する利用環境課では、携帯電話等の契約締結時に本人確認を義務付ける法令を所管しており、犯人と被害者の接点となる電話の不正利用防止に向け、どのような対策が望ましいか、検討しています。

情報通信を使って様々な分野に挑む

総務省は、行政評価、統計、地方自治、情報通信と生活に深く根ざした多岐にわたる業務を担っていますが、特に情報通信は、日常生活はもとより、経済活動とも切り離せないインフラとなっています。だからこそ、「通信」という専門性をもって、国際展開や地域振興、利用者保護といった様々な側面から社会課題と向き合い、どのように便利で快適な社会を作るか、前向きに考え続けられる職場だと思えます。また、仕事に悩んだときも上司や先輩も丁寧に話を聞いてくださり、安心して業務に取り組めます。

最初は漠然とした思いで全く問題ありません(私も総務省を目指したきっかけは、よくYouTubeを見ていたからです)。説明会で職員の話の聞いたり、仕事を進める中で、皆さんの興味を惹く仕事が、きっと見つかると思います。幅広い分野に興味がある、専門性を持って仕事をしたい、何となく通信って面白そう、そう思った方は是非総務省にお越しください!

Q 総務省(情報通信分野)を志望した理由は何ですか?

生活を支えるインフラに携わりたかったからです。学生時代、スマートフォンの普及と併せて、多くのインターネットサービスが生活に溶け込み、便利さを実感しました。これらにより実現する便利で快適な生活をより多くの人に届けたいと思い、総務省を志望しました。

Q 10年後はどんな仕事をしたいですか?

情報通信分野における制度の企画に携わりたいです。現在も近い業務を担当していますが、上司へ相談すると自分の視野の狭さを痛感します。今後も総務省内はもちろん、他省庁出向、留学等を通じて知識を身につけ、より多面的な視点を持って、制度整備に当たりたいです。



携帯電話事業者と打合せ

PRIVATE TIME

週末はワイン好きの友人とグルメ巡りをしています。1週間仕事を終えた後に飲むシャンパンは格別です。また、年次休暇もとりやすく、休日と合わせて取得し遠出することもあります。時期を見て山梨のワイナリー巡りをしようと計画中です。



総合通信基盤局電波部移動通信課
 新世代移動通信システム推進室システム企画係長
夏越 隆就 NATSUKOSHI TAKAYUKI
 平成24年 4月 総務省採用
 情報通信国際戦略局技術政策課
 平成25年10月 大臣官房企画課情報システム室
 平成27年 8月 放送大学学園放送部技術・運行課
 平成29年 7月 総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課
 平成30年 4月 国際戦略局通信規格課標準推進係長
 令和 2年 4月 総合通信基盤局電波部電波政策課電波利用料企画室システム企画係長
 令和 3年 7月 国際戦略局宇宙通信政策課国際係長
 令和 5年 7月 現職

未来の展望を描き、創る 電波行政って具体的には何をするの?

総務省では、社会経済の持続・発展に必要な電波を有効利用するための様々な政策を実施しています。

私の現在の主な業務内容は、①社会の新たなニーズに応えるための無線通信技術を作り(研究開発)、②その技術を国内導入した際に既存の技術に影響を及ぼさないか調査検討を行い(技術試験事務)、③国内で利用するためのルールを有識者と議論しながら作り(技術基準策定・法令整備)、④そのルールに基づく国民からの無線局免許申請を審査する、といったものです。

実際に日々こなしている事務としては、研究開発等に必要予算を要求するための資料作成、契約事業者との打合せや経理検査、技術基準を策定するための会議運営や連絡調整、事業者や国民からの相談・問合せ対応などが挙げられます。細々とした作業も多いですが、それら一つ一つが電波の効率的且つ適正な利用に必要なものであり、目的意識と隣り合わせてやりがいを感じる瞬間が多いです。

あなたが未来を創れます!

情報通信は便利で豊かな生活の基盤となる技術であり、これまでになかった新たなビジネスやサービスなど社会の革新的変化(イノベーション)を創出する源泉でもあります。我々が行っている「情報通信政策の企画立案」は言い換えれば「未来の国民生活・経済活動の青写真を描く」ことです。自身が関わって生まれた技術が数年~数十年後に形となって普及し、人々が社会生活を送るのに不可欠なツール・インフラとして当たり前のように利用される世界へと繋がっていることを実感できるのが、行政に携わる大きな魅力だと思います。

私が現在担当している案件には、5Gの通信可能エリア拡大のための技術、多数のセンサを連携させ高度な通信を行うことで構造物の予知保全を可能とする技術、心拍・呼吸・姿勢等の高精度なセンシング技術などがあります。それらが社会実装され日々の生活に溶け込んでいる未来を自ら創り出すために、今日も張り切って業務と向き合っています。

Q 国家公務員の魅力は何ですか?

未来を創り出す行政の魅力について長々と書かせていただきましたが、それ以外の魅力として、概ね2年周期での人事異動があります。分野を跨いでの業務経験は広範な知見と多角的な視点をもたらしてくれますし、各部署での一期一会も刺激的で楽しいものです。業務内容や人間関係でのマンネリ化とは無縁で、張り合いのある社会人生活を送れること間違いナシです!

Q 実際に働いてみて、入省前のイメージと違ったことは?

役所というと「執務室で紙を使って仕事!」という印象を抱きがちですが、実際にはデジタル化が進んでおり、多様な働き方に対応しています。テレワークやBYOD(私物端末による業務)に積極的ですし、コミュニケーションツールやWeb会議ツールが充実しているので意思疎通もしやすいです。



係内の業務進捗報告も気軽にオンラインで

PRIVATE TIME

休日は、友人と旅行に行ったり、愛用のクロスバイクでサイクリングしたり、愛猫と遊んだりして過ごしています。愛猫を迎え入れたのは生後2か月のときで、迎え入れ直後はお世話に気を配る必要があり外出しづらかったので、係内で相談して少し多めにテレワークさせてもらいました。





暮らしと仕事をつなぐ、テレワーク 誰もが柔軟な働き方を実現できるために

現在、ICTを利用し、時間や場所を効果的に活用して、各自のライフステージや生活スタイルに応じた柔軟な働き方を実現できるツール『テレワーク』の普及促進を担当しています。コロナ禍で多くの企業で導入が進んだテレワークですが、急激な人口減少・少子化が進む中においては、子育てや介護と両立しながら、テレワークによって出社時と変わらず自宅で働けたり、専門的なスキルを持った人をテレワークによって遠隔地から雇用することができたりと、一層、その社会的な意義が高まっています。感染症対策だけに留まらず、新しい働き方として、広く社会に定着するよう、テレワークを実施したことで生じた経営効果や、テレワーク時に生じるコミュニケーション不足の解消方法等について、好取組事例を収集して情報発信したり、テレワークを導入しようとする企業からの相談受付や専門家によるコンサルティング支援などに取り組んでいます。

宮城県気仙沼市への出向について

2018年から2年半、宮城県気仙沼市役所に出向したことは、かけがえのない経験でした。気仙沼市は、東日本大震災で大きな被害を受けた町ですが、その復興から創生への移行期に、市の地方創生事業を統括し、牽引する「創生戦略室長」として、赴任しました。移住・定住促進事業、創業支援事業、ふるさと納税、地域コミュニティの再生等、地域住民・地域企業に根ざした幅広い取組の立上げ・拡大に携わり、現在、地方自治に求められているトップランナー方式での事業推進の実態や、地域内での意思決定や調整の仕組みなど、地方行政の理解を深める貴重な機会となりました。また、どの施策も市民の顔が見える距離感で取組を行うため、市民への影響を一番考えて事業を進めるといふ、魅力が多分にある仕事でした。総務省では、自治体出向も含めて、様々な立場でのキャリアを経験できる可能性があるのも魅力です。

とある一週間

月曜日	課内ミーティングへの参加、翌日の主催イベントの準備を行います。
火曜日	終日、テレワークの普及啓発イベントを運営、取材対応を行います。
水曜日	相談事業を担う事業者から、進捗状況や課題の報告を受けます。
木曜日	次年度事業の仕様書などの資料を、自宅でのテレワークで作成します。
金曜日	前日作成した資料を基に、課長や幹部への報告・説明を行います。



普及啓発イベントで説明を行う様子

PRIVATE TIME

もっぱら健康のため、学生時代から続けているテニスをしています。入省して間もないときは、テニスを通じて、様々な先輩と顔見知りになりました。



様々な経験を繋げる



平成29年採用
情報流通行政局郵政行政部郵便課
国際企画室国際企画係長

外山 みなみ TOYAMA MINAMI



国際会議の様子@サウジアラビア

インターネットの安全を守る仕事



平成17年採用
サイバーセキュリティ統括官付参事官付主査

岡田 真治 OKADA SHINJI



霞が関セキュリティ競技会で大臣表彰を頂きました

国際郵便のルールを作る

インターネットで買い物をする機会が増え、購入した商品が海外から届いた経験がある方もいるのではないのでしょうか？世界各国に宛てた郵便物が円滑に配送されるよう、万国郵便連合（UPU）という国際機関が共通のルールを定めています。国際企画室では年に数回行われるUPUの会合へ出席し、国際郵便を取り巻く環境の変化に対応した政策等について、192の加盟国と議論を行っています。日本はUPUへの拠出金を通じて海外の郵便ネットワークに対する各種支援も行っており、存在感のある国です。その存在感を生かしてUPUにおける議論を有意義なものにできるよう、日本国内や海外の国際郵便制度などについて日々勉強しています。

自分だけのキャリアを築く

入省してからの7年間で、二国間・多国間の国際会議対応、他省庁での勤務、官邸での会議運営、省内の人事関係事務など多様な業務に携わってきました。特に、5ヶ国へ計6回の出張を含む国際関係の仕事は印象深く、立場の異なる各国の政策や意見から、毎回多くの課題や発見が得られます。これまでに在籍してきた部署は関連性がないように見えますが、思いがけないところで過去の経験が役立つこともあり、全ての業務経験が無駄にはならず今に繋がっていると感じています。総務省には様々な部署があり、幅広い可能性があるのももちろん、それぞれ周りの人とは違う自分だけのキャリアを築くことができるのは大きな魅力だと思います。

IoT機器のセキュリティ対策

皆さんが当たり前に使っているインターネットですが、それを守るために多くの人の地道な努力があります。セキュリティに関する取り組みもその一つです。今や身の回りの色々な物がインターネットに接続できる時代になりましたが、生活を便利にする機器がある一方で、攻撃者に乗っ取られ、誰かに迷惑をかけてしまう機器も多々あります。私が担当しているNOTICEは、そのような攻撃者に悪用されるIoT機器を調査し、機器の利用者に直接連絡を行い、機器の設定を見直してもらうことを促すことで安全を守る取り組みです。最近では広報活動の強化を目的として、Webサイトの充実や利用者への意識向上のための広報戦略の策定を進めております。

総務省のICT政策とは

総務省はICT政策を担当していると一口に言われますが、総務省では色々な分野と関わる機会が大変多くあります。

ICT政策は、皆さんの生活を支える基盤の一つであり、今や身の回りの殆どがICTに関係しています。携帯電話やインターネット、テレビといった直接イメージされるもの以外でも、社会インフラとして提供されるサービスの多くはネットワークが支えています。

また、情報通信に関する基盤技術からコンテンツや研究開発まで幅広い分野がありますので、自分が知らないことを積極的に学びたい人、世の中をICTで変えて行きたい人は総務省に興味をもって頂きたいです。



統計局統計調査部消費統計課
審査発表係

城田 真希

SHIROTA MAKI
(令和5年4月入省・一般職事務系)

行政評価局評価監視官付
(連携調査・環境等担当)

竹内 耕太郎

TAKEUCHI KOTARO
(令和5年4月入省・一般職事務系)

大臣官房秘書課

前島 瑞希

MAEJIMA MIZUKI
(令和5年4月入省・一般職事務系)

総合通信基盤局
電気通信事業部事業政策課

高野 圭吾

TAKANO KEIGO
(令和5年4月入省・一般職事務系)

若手職員4名に、総務省を目指したきっかけや実際に働いてみて感じたことを語っていただきました。

まず、簡単に自己紹介をお願いします。

城田：統計局の城田です。長野県出身で現在は都内で一人暮らしをしています。趣味はパドミントンと映画鑑賞です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

竹内：行政評価局の竹内です。大阪府出身で、就職を機に上京してきました。趣味はプロ野球観戦で、阪神タイガースを応援しています。本日はよろしくお願いたします。

前島：大臣官房秘書課の前島です。神奈川県出身で、現在は都内で一人暮らしをしています。趣味は家で映画を見ることや旅行へ行くことです。コロナも落ち着いてきたので、これから沢山旅行へ行きたいです。

高野：総合通信基盤局の高野です。茨城県出身で総務省への入省を機に上京しました。趣味は、サッカー観戦と筋トレで最近ではサウナにもはまっています。

現在は、どんなお仕事に携わっていますか。

城田：家計調査の結果を審査・公表する業務を行っています。家計調査結果は政策判断の際だけでなく、メディアでも多数取り上げられるため、毎月正確な数値・資料を公表できるよ

う責任感をもって取り組んでいます。

竹内：環境省が行う浄化槽行政の施策や事業に対して、環境省とは異なる立場から、業務の実施状況を調査し、課題や問題点を把握・分析し、改善方策を提示するというお仕事に携わっています。



前島：主に、総務省職員全体の人件費予算に関わる業務に携わっています。一年目ではありますが、予算要求の際には実際に財務省ともやりとりをし、給与に関わる予算の確保や、予算書の作成など、スケールの大きいやりがいのあるお仕事をさせてもらっています。

高野：電気通信事業法上の事業者の登録業務や既に登録されている電気通信事業者の各

種変更等の業務を行っています。また、現在は告示改正等の業務もしています。

みなさんが総務省に関心を持ったきっかけ、総務省を選んだ決め手を教えてください。

高野：昨今注目されている5GやDX等の変化の激しい分野の制度整備等に携わりたいと思ったことがきっかけです。また、国という大きなスケールで仕事ができる点も魅力的でした。

竹内：行政評価という行政全体をよりよくするための調査業務に携わり、一つの分野にとらわれることなく、様々な分野に携わりたいという思いから、関心を持ちました。

前島：私は元々地方が好きで、地方の一助になれるようなお仕事をしたいと思い、地方自治業務に関心を持ったのがきっかけです。

城田：私は自分の進路を考えていた際、中学生のときに地域おこし協力隊の方にお世話になった経験の思い出し、そこから総務省がどんなことをしているのが興味を持つようになりました。実際に、総務省の説明会に参加した際、職員の方の雰囲気や人柄に魅力を感じ、このようなすてきな方々と一緒に仕事してみたい

と思ったのが決め手です。

前島：私も同じです。実際に説明会や官庁訪問へ行ってみると、業務に魅力を感じたのもありますが、一番は年次の高い方から若手の方まで、みなさん雰囲気が穏やかなのが印象的でした。働きやすそうな職場だなと感じて、ここで働きたいと思ったのが決め手でした。



高野：実際に説明会に参加して、職員の方々とお話するとイメージが変わりますよね。私も職員の方々の雰囲気が良かった点も大きな決め手になりました。少しでも興味がある方はぜひ説明会に参加して職員の方々の雰囲気を感じてもらいたいです。

職場の雰囲気を教えてください。

竹内：入省前は淡々と事務作業をしているイメージがありましたが、実際は雑談を含め、意見交換等の会話をする機会が多く、自分の考えを共有できる機会が多いです。同期を含め年の近い先輩とご飯に行く機会も多く、楽しい職場です。

高野：気さくで明るい方が多いですよ。私もお昼休憩時は、プライベートの話等、雑談しながら一緒にご飯を食べることも多いです。

城田：みなさんとても優しく、わからないことや不安なことは周りの先輩や上司の方にすぐ相談できるので、とても働きやすい職場だと感じています。

前島：省全体的に、穏やかな雰囲気があると思います。忙しくないときは、みなさん積極的に早く帰られたり、休暇をとられたり、テレワークをしていますし、子育てをしている方は制度を利用して短時間働いて帰っていたり、朝の出勤時間も早い方から遅い方まで、みなさん好きなように働いているところが、結構自由が利くんだなーと意外でした。

官庁訪問に向けてアドバイスをください！

高野：緊張するとは思いますが、できるだけリラックスして自分の思いを伝えることが大切だと思います。

竹内：あまり面接という意識を持ちすぎない方がよいかもしれません。自身の経験を頭の中で整理した上で、面接官と、自分の言葉でハキ

ハキと会話をするのが大切だと感じました。

城田：面接官との対話を意識することが大切ですよ。その上で自分はどんな人間でどんなことに興味があるのか伝えられると良いと思います。

前島：自分の思いを自分の言葉でしっかりと伝えることができれば大丈夫だと思います。実際に働いている職員とお話ができる機会なので、聞いておきたいことは沢山聞いて、会話を楽しむことを忘れず、自分の思いを伝えられるように、頑張ってください！

これまでの業務で一番印象に残っているエピソードを教えてください。

竹内：国会関係の業務を行っているときは、国家公務員としてのやりがいを感じます。また、出張で様々な都道府県に行ったことは印象に残っています。

城田：私も国会対応業務が印象に残っています。家計調査結果は国会でも注目されることが多く、資料提供や議員の先生への説明などとても貴重な経験をさせていただいていると感じています。

前島：私は、仕事でミスをしてしまった時に、上司や同じ課の先輩が、全力で助けてくださったことです。上司や周りに相談をした時に、対処法と一緒に考えてくださったり、困難を乗り越える心構えも教えてもらいました。周りに相談しやすい環境があること、親身になってくれる先輩がいることにすごく救われましたし、そこから自分も精神的に成長出来たと感じて、一番印象に残っています。



高野：告示の改正です。入省して2ヶ月目のときに告示の改正業務を任せられ、最初は何も分からず大変でした。しかし、先輩や上司の方々が優しく教えてください、改正作業が完了したときはものすごく達成感を感じました。

総務省の魅力は何だと思いますか？

城田：多岐にわたる業務を所管している点だと思います。統計、地方自治、情報通信、行政管理・評価など幅広い業務を扱っているからこそ、興味のある分野が誰にでも1つは見つかるのではないかなと思います。

竹内：一つの分野にとらわれることなく、様々な分野に携わることができるのが魅力だと思います。また、総務省の中はもちろん、地方や海外といった総務省の外でも経験を積むことができるのが魅力です。

高野：本当に幅広い分野を所管していますよね。他省庁や地方支分部局、海外機関等、自分の希望次第で様々なキャリアを選べるのが魅力だと思います。

前島：成長できる機会が多いところだと思います。一年目から一人前の仕事を任せてもらえ、社会人のマナーから仕事の仕方まで学ぶことが出来ます。また地方自治分野では、地方公共団体へ出向する機会も設けられているので、若いうちから地方で働く経験を積むことが出来ます。省内には地方から来ている職員の方も沢山いるので、様々なバックグラウンドを持った方と交流できるのも魅力だと思います。



最後に受験を考えている方へ、メッセージをお願いします！

竹内：就活中は多くの不安もあると思いますが、自分のやりたいことを考え、後悔の無い選択をしてください！総務省と一緒に働ける日を楽しみにしています！

前島：公務員といえば堅くて真面目、のようなイメージを持たれることもあるかと思いますが、総務省は良い意味で真面目すぎない、明るく居心地のいい職場であると思います。そんな総務省と一緒に働ける日を心待ちにしています！

高野：試験勉強に面接対策等やらなければいけないことや不安も多いとは思いますが、自分を信じて頑張ってください。一緒に働けることを楽しみにしています！

城田：説明会で感じたとおり、すてきな方々とお仕事をすることができ総務省を選んでよかったと心の底から感じています。総務省の働きやすさは保証します！みなさんと一緒にお仕事ができる日を心から楽しみにしています！



令和4年採用
統計局国勢統計課
人口移動調査係併任人口推計係

和久井 大成 WAKUI TAISEI

利用価値の高い統計について考える1日



9:00AM
スケジュール確認

出勤後、1日のスケジュール・自身のタスクを確認し、係内に共有します。担当内の動きを事前に把握しておくことで業務を円滑に進めることができます。



10:00AM
公表資料の検討

年次結果の公表資料について係内で検討を行います。利用価値の高い統計を提供するため、正確且つ社会のニーズに合った統計の作成を心がけています。



12:00PM
ランチタイム

今日は係の皆さんとランチ会でした。第二庁舎は徒歩圏内に多くの飲食店が軒を連ねており、外へ出る場合も時間内でお昼を満喫できます。



14:00PM
月次結果の公表後対応

今日は「住民基本台帳人口移動報告」の月次結果の公表日でした。公表日には報道機関から照会があり、翌日公表結果が記事になることもあるため誤認のないよう丁寧に対応しています。



17:00PM
上司へのご相談

午前中の打合せを受けて作成した資料を上司へお見せしてご意見をいただきます。その際、自分がどういう意図で作成したのかも伝えるよう心がけています。



19:00PM
退庁

退庁後には、同期や上司の方と飲みに行ったり、ジムに行って体を動かしてから家でぐっすり眠ります。これで明日の仕事のキレが増します。

メッセージ

私は入省まで自分が本当にやっているのかという不安を抱えていましたが、上司の方々や先輩方の手厚いサポートのおかげでとても充実した日々を送れています。また、非常に幅広い業務の中で、私はその末端の1つですが国の根幹を支えていると実感ができ、とてもやりがいを感じています。そんな職場で皆さんと一緒に働ける日を心待ちにしております。



令和4年採用
自治財政局交付税課

熱田 怜英 ATSUTA REI

地方交付税制度の一端を担う1日



10:00AM
登庁

定時が10時開始と遅めの出勤です。電車が比較的の空いている中、通勤できています。登庁後は、1日のスケジュールが昨日から変更ないか確認します。



11:00AM
上司にご相談

これから決裁をあげる案件について、資料作成が完了したので、上司に内容や体裁に誤りがないかを確認させていただきます。



12:00PM
ランチタイム

ランチは自席や省内で食べることが多いですが、たまに他省庁の食堂や銀座へ行ったりします。お昼は全力でフレッシュに努めます！



14:00PM
ヒアリング

自分が担当する費目の関係省庁から、算定への要望等のヒアリングを行います。ヒアリングを有意義なものにするため、あらかじめ勉強してから臨みます。



16:00PM
団体へ確認

交付税算定は団体から報告される数値を扱うため、正確な数値把握のために、数値に疑義が生じた際には該当団体へ確認依頼を行います。



19:00PM
退庁

退庁後は、同期や課内の方々との飲みに行くことが多いです！地方の話や先輩方から聞き、地方出向が楽しみになるばかりです。

メッセージ

就活を地方創生という大雑把な軸で行っていましたが、最終的に総務省に決めた理由は「人」です。説明会でお会いした職員の方々に惹かれ、「ここで働いてみたい」と思うようになりました。是非、説明会で仕事の内容はもちろんのこと、どんな人が働いているのかを感じてもらえればと思います。皆さんと一緒に仕事できることを楽しみにしています！



令和5年採用
国際戦略局国際経済課

仲田 陽香 NAKADA HARUKA

IGF京都出張の1日



9:30AM
IGF京都2023

国連主催のもと、AIやサイバーセキュリティ等様々な議題に関して対話を行なうIGF京都2023(インターネット・ガバナンス・フォーラム)に携わるため京都に出張です。



11:00AM
当日のスケジュールを確認

出張前に準備した資料に目を通し当日の全体の動きや自分の業務を確認します。不明点等があれば、上司に質問し想定外の事態が生じた場合も現場でスムーズに動けるよう準備します。



12:00PM
ランチタイム

会場である国際会館ではお昼ご飯の提供がありました。日本がホスト国ということもあり美味しい日本食をいただきました。



15:00PM
会議本番

会談が始まり、AIや先端技術等に関して議論が行われました。会議中は、会談内容を簡潔にメモに記録します。会議終了後、会談中の議事録メモ作成し完成次第、上司に報告します。



18:00PM
展示場視察

会談の合間に、展示場の視察に行きました。展示場では、各国の企業が出展している最新技術に触れることができ、技術者の方に実際のお話を伺うなどして、貴重な情報収集に努めました。



20:00PM
レセプション

会談終了後は、バイキング形式で食事を楽しみました。会場内では伝統芸能の披露、野外では花火も打ち上げられ、日本文化の良さに改めて気付くことができました。

メッセージ

私は、国民生活に密着したICT分野で貢献したいと思い入省しました。入省後は、各国間での会談の中で国民生活の指針となる取り決めの場などに立ち会う機会がありました。業務に責任感を持ち全うすること、その際に得られる達成感に日々やりがいを感じています。業務の多くは横断的に国民生活に関わっているため、説明会に足を運ぶことで業務のイメージが湧きやすくなると思います。総務省で皆さんをお待ちしております！

若手職員アンケート



総務省を選んだ決め手を教えてください

様々な分野における行政課題に関心があり、行政評価局の職員になれば、多くの行政課題に関わることができると思ったからです。

行政評価局

官庁訪問で職場の雰囲気を見たり、多くの職員と話したりして、自分にとって働きやすそうな職場だと思い決めました。

行政評価局

説明会で実際に訪れた際に、職員の方が穏やかそうな方が多く、働きやすそうと思ったことが決め手でした。

大臣官房

地方自治に以前から興味があり、日本全体の地方のために政策作りを行える総務省の地方自治分野を選びました。

消防庁

日々変化する情報通信分野で、放送行政やICTの国際協力などダイナミックな業務に携わってみたいと思ったからです。

情報流通行政局

大学の研究活動から統計に携わる仕事に就けたらいいなと考えていたところ、統計局を見つけここにしよう決めました。

統計局

国家公務員の中でもより様々な方のお役に立てることが可能だと感じそのような場所で働くことができたらと思ったからです。

統計局

国レベルでの地方創生に寄与できることや消防庁を含めた防災行政などの国政に携われることに魅力を感じたことです。

自治行政局

情報収集や判断形成に重要なテレビをはじめとする放送分野を、政策により発展させたいと考えていたためです。

総合通信基盤局

幅広いことに興味があるので、いろいろなジャンルを網羅的に扱える総務省を希望いたしました。

統計局

国の立場から制度面を整えるだけでなく、地方に出向して現場での経験を活かせることに魅力を感じました。

大臣官房

地方自治分野では自治体への出向があり、国と地方双方の視点から政策を考える総務省の業務の幅広さが決め手になりました。

自治税務局

たくさん面接に行った中で、一番職員の方の雰囲気良かったからです。

情報流通行政局

やりがいを教えてください

日々の照会業務です。自分が回答した内容が「法所管である総務省の回答」となるので、緊張感と責任感を感じます。

行政管理局

毎月の調査結果を無事世の中に公表できたときや、それらの結果がメディアなどに活用されたときです。

統計局

法改正や大臣の答弁作成に携わったことなど、国会対応を初年度で経験できたことは、非常にやりがいを感じました。

自治行政局

報道発表の際に自分の名字が載って掲載された時は非常にやりがいを感じました。上司の方に褒められた際もやりがいを感じます。

消防庁

告示改正やHPで公開しているマニュアル改正等、形として残るものの改正作業を完了した際は、やりがいを感じました。

総合通信基盤局

入省1年目から予算関係等の局内調整に携わっていること!! 重大な責任ですが、やりがいを感しながら業務に取り組んでいます!!

統計局

外部の方からのお問い合わせに対して、しっかりと対応することができたことです。

統計局

入省前と入省後のギャップを教えてください

ずっと座ってパソコンをカタカタしているイメージだったのですが、イベント事のお手伝い等で着ぐるみに入ることがあり驚きました。

行政評価局

入省前は淡々と事務作業をしているイメージがありましたが、実際は雑談を含め、意見交換等の会話をする機会が多いです。

行政評価局

入省前は不安でいっぱいでしたが、周りの方が本当に優しく、安心してわからないことを質問できるのでほっとしています。

大臣官房

規律が厳しく、堅い職場だと思っていましたが、意外と自由度が高かったことです。

消防庁

職場での会話が少ない職場だと思っていましたが総合職・一般職職員関係なくコミュニケーションをとりながら業務行ところです。

総合通信基盤局

もう少し堅い雰囲気かと思っていましたが、先輩や上司の方がとても気さくで相談しやすい環境でした。

政策統括官

思っていたより事情に合わせて勤務形態や勤務時間を変えることができることにギャップを感じました。

行政評価局

テレワークや短時間勤務など、職員それぞれに合った働き方が浸透しているところが意外でした。

大臣官房

国家公務員は厳しい方が多いイメージでしたが、優しい方が多く非常に働きやすいと感じました。(厳しさもちろんあります。)

消防庁

入省1年目から、スケールの大きい業務に携わることができるとのことです。

国際戦略局

職場が常にギリギリしたイメージがありましたが、いざ入省すると、周りに質問や相談がしやすくとても暖かい環境だったことです。

情報公開・個人情報保護審査会事務局

同期とは仕事仲間よりも友達に近い感覚で接することができ、相談しやすい関係が築けたことが意外でした。

統計局

入省前は一般職と総合職の差に対して不安を感じていたが、入省してみると立場にかかわらず幅広い職員が活躍していました。

自治財政局

本当に優しく接してくれる職員ばかりです。働き方の多様化もかなり推進されています。

大臣官房



若手職員アンケート



受験生へメッセージ

自分らしさを大切に、後悔のない進路に進めるよう頑張ってください!

統計局

自分がどんなことに貢献してみたいかを考えることが大事だと思います。あとは、その思いを官庁訪問でぶつけて下さい!

行政評価局

何をやっているのかよく分からない方も多と思いますのでまずは説明会へ!一緒に働けることを楽しみにしています!

大臣官房

色々な地方の方と触れ合うことができ、実際に働くことも多い仕事です!とっても楽しいですよ!

自治大学校

長く大変な道のりを乗り越えた先には、やりがいのある素晴らしい日々が待っています。ぜひ一緒に働きましょう。

総合通信基盤局

面接では具体的な経験談と数字に基づいた論理立て、それと多少のユーモアを忘れずに!

行政評価局

総務省は、どこの職場もあたたかい職員であふれています!一緒に楽しく職務を全うしましょう!

行政評価局

試験や面接の準備は大変だと思いますが、適度に休みつつ頑張ってください!皆様と働ける日を楽しみにしています!

大臣官房

緊張や不安もあるかと思いますが、適度に息抜きをしながら後悔のないよう頑張ってください!

消防大学校

早く一緒に働きましょう。この国を変えるのは君だ。

行政管理局

適度に休憩をいれつつ、自分のやりたい仕事、なりたい将来に向かって頑張ってください。

統計局

国にも地方にも興味がある方はぜひ地方自治分野を考えてみてください!皆さんと一緒に働けるのを楽しみにしています!

自治税務局

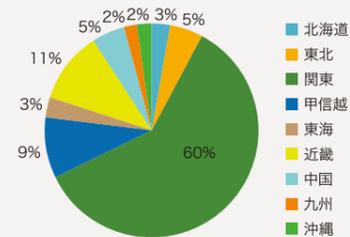
所掌が幅広い総務省では自分がやりたいことにあった仕事が見つかると思います。一緒に頑張ろう!

情報流通行政局

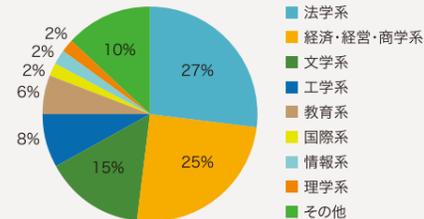
勉強などが大変で不安になることもあるかと思いますが、悔いのない進路選択ができるよう、頑張ってください。

サイバーセキュリティ統括官

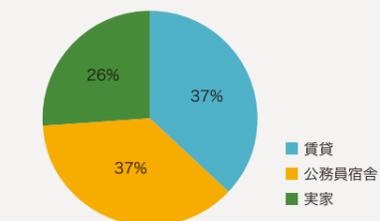
出身地はどこ?



出身学部はどこ?



現在の住居形態は?



MESSAGE 地方自治体 (総務省から地方自治体へ)

相模原市財政局財政担当部長

秋山 亮 AKIYAMA RYO

平成14年4月 総務省採用(総合職)として入省
大臣官房秘書課
平成15年4月 同 自治財政局財政課
平成16年4月 広島県地域振興部市町村分権総室市町村行政室
平成17年4月 同 地域振興部地域分権総室地域行政室
平成18年4月 総務省自治行政局行政課の創設
平成20年4月 同 自治行政局行政課総務室主任係長
平成22年4月 同 自治行政局選挙部選挙課選挙第二係長
平成25年4月 同 自治行政局行政課行政第二係長
平成27年4月 同 自治行政局行政課行政第一係長
平成29年4月 同 自治行政局地域政策課地域情報政策室
地域情報専門官
(自治行政局地域政策課地域情報政策室主任係長併任)
平成30年4月 同 自治行政局住民制度課主任
(自治行政局市町村課主任併任)
(自治行政局住民制度課外国人住民基本台帳室主任併任)
令和2年4月 同 自治行政局行政課主任
(自治行政局行政課総務室課長補佐併任)
(自治行政局行政課2040戦略室室員併任)
令和3年4月 相模原市財政局財政部参事(兼 財政課長)
令和4年4月 現職

「地方が主役」であるために

市の財政運営を担当する管理職として

私は現在、神奈川県相模原市において市の財政運営を担当する管理職として勤務しています。相模原市は、平成22年に指定都市となり、令和6年に市制施行70周年を迎えました。都心に近く人の往来が活発な都市部と、豊かな森林と水源のある中山間地域を併せ持つ「都市と自然のベストミックス」された都市であり、リニア中央新幹線の新駅設置に伴うまちづくりが進められるなど、今後も発展の可能性を秘めた都市です。

現職では、限られた財源の中で市民に対して効果的・効率的な行政サービスをどのように行うか、事業に必要な予算を精査するために様々な事業内容や国の制度等を幅広く把握する必要があり、総合的な行政を担う自治体の醍醐味を感じています。管理職の職責に不安もありましたが、これまでの総務省勤務で培った知識に加え、仕事の進め方や上司部下との接し方等の様々な経験が活かされ、今では自信を持って職務に取り組むことができていると実感しています。

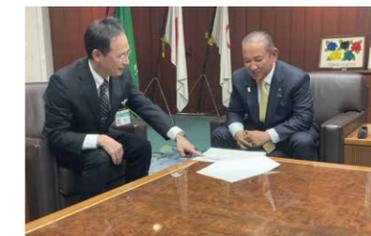
「地方」を支えるオンリーワン省庁

私はこれまで、主に地方自治制度等の地方公共団体の行政運営の根幹となる制度の企画立案に関する業務を担当してきました。一般的に、国と地方の財政負担は「6:4」に対して、業務負担は「4:6」と言われています。福祉、教育、消防等の様々な行政サービスの実施主体は地方公共団体であり、「地方が主役」となっているのが実態です。

総務省は、「『地方が主役』であるためにどうすべきか」を常に考え続けています。地方のための制度や施策を地方の目線で企画立案し、時には地方の代弁者として他省庁と折衝・調整する、そんな省庁は総務省しかありません。職員の多くが地方公共団体での勤務を経験しており、そこで得た知識や経験を国の制度や施策に的確に反映させることができる、まさにオンリーワンの省庁だと確信しています。興味がある方は、地方公共団体を愛してやまない諸先輩方から熱く語られる「地方への思い」を肌で感じてみてはいかがでしょうか?

とある一週間

- 月曜日** 市の重要施策を決定するため、市長等が参画する庁議に参加します。
- 火曜日** 地域住民が集う懇談会に参加し、公共施設の在り方等について対話を行います。
- 水曜日** 物価高騰対応等の経済対策のための補正予算の編成にあたり、市長査定を行います。
- 木曜日** 市議会本会議に出席し、補正予算案の提案理由説明や、議員の質問への答弁を行います。
- 金曜日** 退庁後、財政局職員が企画する懇親会に参加し、親交を深めます。



本村市長に補正予算案を説明する筆者

PRIVATE TIME

週末は、主に3人の子の父親として家族との時間を大切にしています。趣味はプロ野球観戦です。入省3年目に広島県庁に赴任した縁で、地元球団のカープファンになり、ファン歴も20年になりました。各地の球場で、家族や友人、職場の同僚と観戦し、一喜一憂しながら、美味しいビールを飲むのが至福の時間です。



「地方」と「国」の橋渡し



平成15年採用
徳島県政策創造部地方創生局市町村課長

小島 周一郎 KOJIMA SYUICHIRO



後藤田知事と業務打ち合わせを行う筆者

地方自治の最前線

徳島といえば、まずは毎年夏の阿波踊り、最近では神山まるごと高専の設置、加えて、渦潮、剣山や吉野川が所在する風光明媚な環境に24の大小様々な市町村が存在しています。私が所属する市町村課は住民に身近な市町村が健全な行政運営を行うことで、魅力ある地域づくりに繋げていくためのお手伝いをしています。

私は市町村課長として県内自治体を巡り、市町村長さんをはじめとした現場の声を直接聞き、地域の実情や困りごとを把握し、県や国の施策に反映すべく、日々思いを巡らせています。

加えて、県選管書記長として日頃から選挙啓発業務を行ったり、昨年度は参議院補欠選挙があり高知県との合区選管事務局長としての執行管理を行いました。

国でも、地方でも・・・良いところの勤務経験

私の地方勤務はここ徳島県での管理職、そして北陸福井県での若手職員として、これまで2度の勤務機会がありました。

それぞれの立場で現場に赴任し地方の実態を把握することで、国に戻った際に地方に関係する施策に携わることが出来るのは、国、地方どちらにも勤務可能な総務省職員の大きな魅力です。様々な立場の人と知り合うことで培われる、全国津々浦々の貴重な人脈は公私問わず様々な面において今も生きています。

地方での勤務は、国家公務員として東京で勤務しているだけでは見逃してしまう、現場ならではの実態を把握することができる貴重な経験であり、人としての糧と成長を感じることが出来る魅力的な職場であると改めて感じています。

国も地方も、欲張りなあなたへ



平成15年採用
小田原市市民部管理監

安藤 弥生 ANDO YAYOI



子供とともに小田原の自然を満喫

想いを形に変えるために

私は今、小田原市市民部で、主に地域活動団体の活動支援を行っています。少子高齢化や地域の繋がりの希薄化等により、自治会をはじめとする地縁団体の活動の担い手不足は全国的な課題となっており、地域活動をいかに持続可能なものにしていくかという課題に向き合い、現場の活動や声を見聞きしながら解決策を模索しています。

現場での経験を通じて、地域活動の原動力は、「社会に対する人々の想い」だと感じています。その想いを「形」に変える行動を行政としてどのように後押しできるか、また、活動する上での支障や負担をいかに軽減できるかを常に考えながら、市民が主役となるまちづくりを目指して、日々取り組んでいます。

1度の人生、欲張りになろう

私が就活をしていた約20年前、一番の悩みは「働きがいと働きやすさ、どっちをとるか」でした。そして今、働き続けてきて言えることは「どっちも大事にしようよ」ということです。総務省で活躍できるフィールドは幅広く、得られる経験には事欠きません。また私自身、子育てによる時間制約がある中、周囲の協力を得て日々を乗り切ってきた経験は、公私に渡るマネジメントの視点を与えてくれました。

総務省の仕事を通じて得られるものは、国の施策に携わるダイナミズム、地方勤務を通じた現場感覚、人との繋がり、苦楽を共にした仕事仲間、人としての成長や学び・・・挙げればきりがありません。その欲張りなあなた、総務省で一緒に働いてみませんか？

地方自治の現場から！



平成25年採用
各務原市企画総務部財政課長

伊藤 大智 ITO DAICHI



子どもと岐阜かかみがはら航空宇宙博物館へ

財政を通して施策の展開

私は現在、人口14.5万人、航空機産業や自動車産業などものづくりが盛んな各務原（かかみがはら）市の財政課長として勤務しています。

その仕事は、予算編成をはじめとする財政運営全般を通して、市職員の皆さんと一緒に市の施策を展開することです。その中で関わる事業は、いずれも「地方自治の現場」ならではの市民生活に直結するものばかりです。

市民の皆様の生の声を日々感じながら、各担当課からの提案事業を限りある財源の中で、予算案という形でまとめ上げます。そして、その予算案について、市長へ説明、市議会で答弁を行うとても重要な役割を担っており、その責任の大きさとともにやりがいを感じながら日々取り組んでいます。

地方を想う熱い総務省！

私が総務省を志望したのは、地方自治に関わる業務内容に加えて、地方を想う熱い職員がいる職場の雰囲気にも魅力を感じたためです。

人口減少や少子高齢化など課題がいち早く具体的に現れる現場は、地方自治体です。私は秋田県に次いで2回目の地方自治体勤務ですが、このような様々な地方自治体勤務の中で、リアルなニーズや課題に肌で触れることが、地方への想いをより一層熱くします。

総務省は、そんな地方を想い、どうしたら地方にとって最善なのかを考え、日々議論を交わし、国の施策に反映させるために奮闘する職員であふれています。

ぜひ、地方を想う熱い総務省で、一緒に働いてみませんか！

地方自治を考える視点



令和3年採用
福島県総務部市町村財政課

加瀬 大輔 KASE DAISUKE



冬の装いを始める大内宿にて

国と市町村をつなぐ役割として

私は現在、福島県市町村財政課に所属し、県内市町村の財政運営に係る業務を担当しています。人口や面積、主要産業などが異なる59の市町村が、その実情に応じて健全な財政運営を行うことができるよう、財政状況に関する調査の取りまとめや、様々な計画の策定に係る助言などを行っています。

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から13年以上が経過したいま、各市町村が復旧・復興に向けた事業を推進していくうえでは、その財源をいかに確保するかということが重要です。制度に関する理解を深めるとともに、市町村職員との対話を通じて現場の声に耳を傾けることにより、国と市町村をつなぐ役割を果たせるよう、日々の業務に励んでいます。

人との出会いから得られるもの

様々な角度から地方自治のあり方を考えられること、これが総務省の魅力だと私は感じています。制度を設計する人、制度を運用する人、窓口で住民と接する人、それぞれがそれぞれのフィールドで培った経験を持ち寄り、双方向に関わり合いながら、「より良い地方を創る」という同じ目標に向かって仕事ができる。特に地方志向では、県職員や市町村からの実務研修生とともに働く中で、新たな物事の見方、考え方を吸収することができ、地方自治を考える視点をより柔軟で幅広いものにしていただいていると感じます。

人との関わり、地域とのつながりを通じて自分自身を成長させることができる総務省で、皆さんと出会う日が来ることを楽しみにしています。

調査の実動部隊として



令和3年採用
関東管区行政評価局評価監視部評価監視官付

渡邊 隆靖 WATANABE RYUSEI



趣味の登山でリフレッシュ！

行政運営改善調査と常時監視活動

私が所属する関東管区行政評価局評価監視部では、本省が示す「行政運営改善調査」の調査計画に沿って、関係機関へのヒアリングや現地調査等を行っています。一担当者として、関連する法制度や各主体の取組状況等についてよく勉強し、調査の狙いや調査事項を正しく理解した上で調査に臨むよう心掛けています。

また現在、特定の社会的問題について、管内の各種報道や自身の問題関心を端緒に情報収集を行い、行政上の課題として本省に報告する「常時監視活動」にも注力しています。社会的問題を取り巻く制度や仕組みを把握・整理し、その中で行政上の不備、行政が改善すべき事項とは何かを分析する必要があり、難しくもやりがいを感じています。

行政評価局で働く魅力

学生時代、業務説明会をきっかけに行政評価局について知りました。各府省の業務実施状況等を調査し、改善方策の提示から改善措置状況を把握するためのフォローアップまで行う、行政運営改善調査を始めとする局業務の社会的意義に魅力を感じ、そのような仕事に携わりたく強く思い、今に至ります。

その時々調査テーマに応じた法制度だけでなく、日常的な情報収集や政策の効果検証のための統計的分析手法など、新しいことを学ぶ機会に恵まれた職場であると感じています。法令理解等で悩む場面もありますが、上司や先輩職員に聞くと、分かりやすく丁寧に教えてもらえるので、日々、沢山の学びを得ながら業務に取り組むことができます。

よりよい暮らしのために



令和3年採用
中国四国管区行政評価局行政相談課

野尻 真帆 NOJIRI MAHO



庁舎の近くにそびえる広島城

困っている人に届ける

行政相談は、国民の皆さんから国の行政に関する意見・要望・苦情をお聴きして、解決されるように働きかける仕組みです。私は、その行政相談の担い手である行政相談委員（総務大臣から委嘱された民間のボランティア）の活動を支援する業務を行っています。地域のイベントや小中学校等での出前教室など、県内の色々なところに出向いて、行政相談委員と協力しながら行政相談制度をPRしています。最近では、相談手段の多様化のため、タブレットを活用した相談対応や、オンライン研修にも力を入れています。

国民の皆さんに、困ったときの頼り先のひとつとして「行政相談」という選択肢を持ってもらえるよう、日々考え、業務を行っています。

国民にも、仕事仲間にも、耳を傾ける

行政相談は、国民の声に耳を傾け、改善につなげる仕事です。そのような仕事を日々行っているからこそ、職場内でも仲間の意見や相談に耳を傾け、解決・改善に向けて一緒に考えていく雰囲気があります。

公務員の仕事は、ルーティンワークが多く融通が利かなそう、というイメージがあるかもしれませんが、実際には、職員の意見を反映しながら随時業務の見直しを行っています。

若手だから、と遠慮せずに気づいたことをどんどん口に出していくことで、自分たちや行政相談委員の仕事の効率化、ひいては国民の生活の改善につながることもあります。風通しの良い職場で、生き生きと働いてみたい方は、ぜひ総務省の説明会に足を運んでみてください。

東北の元気アップのために



平成18年採用
東北総合通信局放送部放送課長

柏崎 幹夫 KASHIWAZAKI MIKIO



課内打ち合わせで情報共有と作戦会議

東北びいきで仕事ができます

東北総合通信局は、総務省の出先機関として、本省で策定した情報通信関連の各種法令や政策を、地方において執行する役割や、地方の声を国（本省）に届ける役割を担っています。

放送課では、電波法・放送法に基づく放送局の許認可・監督、難視聴対策や放送の強靱化のための補助金等の支援、受信障害相談、原発被災地における地上デジタル放送の受信対策など、東北地域の放送の普及に関する事務を行っています。

本省では通常、特定の地域に注力する対応はできませんが、東北局ではこの地域の特色を生かし、ICTによる地域課題の解決と活性化を目指して「東北びいき」で業務に当たることができ、日本を支える地方での勤務のやりがいを感じます。

得意なスキルを深め、そして役立てる

テレビ、ラジオ、携帯電話、無線LAN、いずれも電波があって使えるものです。私は、大学で学んだ電波の知識を深め、生かしたいと思い、転職を経て総務省に入りました。

行政職のため、企業や研究職ほど一つの分野を掘り下げるには至りませんが、上記の無線システムの他、これまでに航空無線、列車無線、防災無線、気象レーダ等の無線局免許や技術基準策定を担当したことで、仕事を通じて幅広い知識が得られました。

また、東日本大震災の発生時には、本省で、災害対応機関が使う周波数の臨時割当を担当しました。未曾有の災害における国の膨大な対応の一部ではありますが、非常に重要な業務であり、そこに自分のスキルを役立てることができました。

ICT政策の現場に立って



令和元年採用
中国総合通信局無線通信部陸上課

土屋 幸輝 TSUCHIYA KOKI



休日などには広島名物を堪能

新たな側面から

例えば皆さんの生活に最も身近なツールであるスマートフォンは、電波を使用した無線通信を行っているのですが、そのような電波の利用には原則として無線局の免許などの許認可が必要となっており、それに係る手続きなどが電波関係法令に定められています。

地方支分部局はそのような許認可などに係る業務のうち実運用の部分を担当しており、私は携帯電話や電力・ガス会社等からの無線局の新設・変更申請などに係る許認可の適否の審査やそのような企業等の無線局が免許を受けた際の条件を持続できているかを定期的に確認する検査などを行っています。その他ローカル5Gなどの申請に係る相談対応も含め、電波制度の適正な運用が確保されるよう日々業務に取り組んでいます。

情報通信行政に携わること

情報通信技術（ICT）は、日進月歩で進化し、その市場やサービスの変化が制度よりも先を行く分野になります。そのようなICTが私たちの社会を大きく変えていく中で、産官学の様々な立場の方と関わりながら、その政策や制度の企画、立案、推進などに携われることが数ある府省庁の中での総務省ならではの魅力ではないでしょうか。

また、総務省は情報通信分野だけでも所掌する分野が多岐にわたっており、自分の興味・関心がある分野や強みが発揮できる分野に出会える機会に恵まれていることも魅力として挙げられるかと思っています。

総務省に少しでも興味のある方は、一度説明会へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

寄り添う行政



平成29年採用
内閣官房デジタル行財政改革会議事務局

熱田 翔 ATSUTA SHO



愛犬のモカちゃんとの2ショット

改革の司令塔

私は現在、内閣官房デジタル行財政改革会議事務局に出向しています。ここでは、規制改革、デジタル改革、行政改革、デジタル田園都市国家構想及び各府省庁の改革の司令塔の役割を担っています。

デジタル行財政改革は、「利用者起点」をキーワードに、教育、交通、介護をはじめとした身近なテーマについて、現場の方々の声を聴きながら、デジタルの力を最大限に活用して、規制や制度の見直しを進めています。

私は主に広報業務を担当しており、この取組を国民の皆様に分かりやすくお伝えできるよう日々奮闘しています。

改革の最前線で仕事ができるのは、大変貴重な経験であり、刺激的な毎日を楽しんでいます。

現場の声に耳を傾ける

現在の仕事でキーワードになっている「利用者起点」。私が総務省で担当していた行政評価局の仕事にも近いものがあると感じています。

例えば、行政評価局で行っている「行政相談」は、国民の皆様からの相談を受け付け、関係行政機関との間に入り、その解決や行政の制度、運営の改善に生かす仕組みです。

窓口の愛称「きくみみ」は、「相談者からの話に耳を傾けしっかり聞くことを大切にしたい」という意味が込められています。

「制度がこう決まっているから仕方ない」ではなく、利用者の声を大切に、必要があれば制度を見直す、その思考に共感できる方は、総務省に向いているかもしれません。

ぜひ一度、説明会に足を運んでみてはいかがでしょうか。

今、目の前の仕事に懸命に取り組む



令和2年採用
厚生労働省政策統括官付参事官付
世帯統計室成年者縦断統計企画係

上本 理紗子 UEMOTO RISAKO



休暇に友人とケーキを食べて気分転換

ここでしかできない統計

厚生労働省では、成年者縦断調査という調査を担当しています。縦断調査とは何年間も同じ方に同じ質問を続け、その回答の変化を見る厚生労働省ならではの調査で、ここでしか携われない大変興味深い調査です。また、厚生労働省では他省にはない独自のプログラムを用いて統計表を作成しています。年によっては総務省からの提案で新表を作成することもあります。プログラムの仕組みを理解するのは簡単ではありませんが、上司の方や先輩にアドバイスをもらいながら今までなかった表を作り上げていく作業はとてもやりがいを感じます。

身近に役立つ、誇れる仕事

総務省では、二年間家計調査という調査に携っていました。家計調査では都道府県庁所在地別の消費支出金額を出しておりメディアに取り上げられることが多く、昔から見ているパリエティ番組やクイズ番組の制作会社から調査結果について問い合わせがあった時はこんなにも身近に自分たちの仕事活用されていることを知り誇らしくなりました。職場の雰囲気は明るく、同年代の同僚も多くとても仲が良いです。年結果の公表日には家計調査名物の餃子の年間消費支出ランキングを見ながら係メンバーで餃子を食べたこともあります。仲間と一緒に統計を作ることに興味のある方は是非総務省にいらして下さい！

進化するICTの利用を支援



平成18年採用
個人情報保護委員会事務局
国際室参事官補佐

山本 明央 YAMAMOTO AKIO



学校のチャイムの起源とも言われるビッグ・ベン

つなげる・つながる仕事

ICTの進展により個人情報を含む膨大なデータが収集・分析可能となり、また、経済・社会活動のグローバル化に伴い、国境を越えたデータ流通が増える中、個人情報保護委員会事務局では、個人情報が安全・円滑に移転できる国際環境の構築を目指し、国際的枠組みや二国間における連携・協調等を進めています。私は、現在、そのうちの多国間フォーラムによる企業認証制度の立ち上げ準備や国際機関における個人情報保護に関する議論を担当しています。

歴史、文化等の違いから、各国がそれぞれ法制度の整備を進める中、国際的な協働を通じてそれらをつなげるとともに、国際会議等の場で私自身が様々な関係者とつながる機会のある仕事に携わっています。

多様な選択肢

これまで、東北総合通信局（地方支分部局）では震災復興支援、ボツワナ共和国（海外）では大使館職員として日本方式の地上デジタルテレビ放送への移行準備、そして、静岡県袋井市（地方自治体）では市職員としてICT事業のとりまとめをそれぞれ経験しました。本省での勤務に加えて、希望すれば、様々な場所で様々な役割を担いICT分野における幅広い業務を選択できることが総務省の魅力の1つだと感じています。

また、日進月歩で進化するICTを扱っていることもあり、総務省では年齢や役職を問わない自由闊達な議論が行われています。皆さんのアイデアを施策や事業に反映するチャンスが多い総務省での活躍をお待ちしています。

サイバーセキュリティで国を守る



令和3年採用
内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター

樋口 久也 HIGUCHI HISAYA



休日は外出してリフレッシュ

国防を担うNISC

私は現在、NISC（内閣サイバーセキュリティセンター）に出向し、システム運用チームの一員として、サイバー攻撃への対処に携わっています。NISCでは24時間365日、政府関係機関へのサイバー攻撃を横断的に監視し、有事の際の情報収集と対処を実施しています。

日々の業務では、NISCと政府関係機関との間で構築しているシステムについて、クラウド導入等の機能強化のための企画やシステム更改等に伴う再構築作業を実施しています。特に、各機関からヒアリングを行い、機関毎の要望に合わせた機能を柔軟に実装していく調整をしています。技術分野の知見を深めるためCYDER等各種実習もあり、サイバー人材育成に注力していることも魅力です。技術の進歩は早く、時代の変化に合わせた対応が急務になっています。

学びと達成感

これまで、JAXA等が開発する人工衛星等の無線局許認可業務や、NICTが行う研究開発の支援等、様々な業務に従事してきました。どの部署の業務も大変な時もありましたが、新しい研究や技術に触れられることは面白く、やり甲斐の一つになっています。

日常業務を円滑に進める上では、上司や同僚と密に連携をとることが大切です。特に一日の業務の流れは想像以上に早く、随時状況のキャッチアップと周囲への共有が欠かせません。そのような日常で、多くの方々と連携しながら一つの業務を完遂すると達成感を感じます。

総務省の職員の方々はユニークで接しやすい方が多いです。これから入省するみなさんとも一緒に働けることを楽しみにしています。

統計から世界を見る、知る



より良いデータを目指して

私は現在、「持続可能な開発目標（SDGs）」の測定活動に寄与するとともに、国際統計に関する知見を得ることを目的に、国連統計部に派遣されています。SDGsは2030年までの達成を目指す国際的な開発目標であり、貧困や飢餓の撲滅、ジェンダー平等など幅広い分野を網羅しています。SDGsの達成のためには、世界各国が比較可能な統計データを整備して進捗状況を測定し、その結果を関連する政策立案に活用することが不可欠です。私は社会・ジェンダー統計セクションに所属し、ジェンダー統計分野を中心に、国際統計基準の策定、国際会議の開催、統計職員的能力開発支援などを通じて、各国の統計データの質や比較可能性の向上に取り組んでいます。

平成27年採用
国際連合経済社会局統計部

小林 風花 KOBAYASHI FUKA



国連本部ビル(ニューヨーク)

広がるフィールドと可能性

総務省は幅広い業務を所管しており、そのフィールドは海外にまで広がっています。私自身、地方支分部局で採用されてから、本省、他府省、そして現在の海外勤務と様々な職場に勤務し、行政相談や政策評価といった統計行政以外の業務も経験してきました。こんな仕事をしたというはっきりとした方向性が決まっていなくても、総務省の多種多様な業務の中で、皆さんの強みや興味を活かせる場がきっと見つかるはず。様々な面から日本の行政に関わりながら、自分の可能性を広げることも深めることもできる。それが総務省の魅力だと思います。

海外でも「日本の自治体」を思う



日本の自治体のための海外拠点

クレアパリ事務所の事業は、フランス国内において日本の地方自治体等が行政制度の調査を実施する際の支援や情報収集、日本の伝統工芸品等の地場産品の販路拡大のきっかけとなる企画展の立案・実施、フランスの地方都市における日本の自治体のPR、日仏間の姉妹都市の連携強化、JETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）の広報活動など多岐に亘ります。赴任して約一年が経ち、日仏間では、言語はもちろんのこと、各種制度や文化の違いを背景として、仕事の進め方等に差異が存在する場合も当然にあり、「国際化」という業務の難しさを感じる場面も多々ありますが、それらを含め、海外生活での全ての経験が自分を一回り成長させてくれているように感じます。

平成20年採用
自治体国際化協会パリ事務所 所長補佐

阿久津 佑介 AKUTSU YUSUKE



休日は観光の街パリをいつも散歩しています

活躍の場は海外にまで広がる

地方自治分野の職員の多くは、「日本の自治体のために」という思いが強い方だと思います。私もその一人でした。入省以来、本省での地方税の企画立案業務や、長野県市町村課での業務を通じて、採用当時の思いをそのままに仕事に打ち込んでこれたのは、共に働く同僚の多くが、私と同じ気持ちで仕事に向き合っていると肌で感じたからです。活躍の場は、国内に留まりません。パリ事務所のほかにも、総務省の仲間が日本の自治体のためにシドニーやニューヨークで活躍しています。国内での業務を通じてまずは日本の自治体の行政制度等の特色を学び、その知識を武器に海外において自治体の国際化業務に従事する、そんなキャリアアップはいかがでしょうか。

総務省からメキシコ、チリへ、そして・・・



平成25年	4月	総務省採用 総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課
平成27年	5月	情報通信国際戦略局国際経済課
平成30年	5月	大臣官房秘書課
令和元年	8月	メキシコ研修
令和2年	8月	総合通信基盤局電気通信事業部政策課基幹通信係長 (総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政第二課併任)
令和4年	4月	総合通信基盤局総務課法規係長
令和4年	7月	育児休業
令和4年	10月	総合通信基盤局総務課総務係長
令和5年	6月	現職

在チリ日本国大使館二等書記官

川本 晃洋 KAWAMOTO AKIHIRO

デジタルハブを目指す南米の先進国

チリは、世界的な銅、リチウムの鉱物資源国で、ワイン、サーモンの生産大国として日本にも身近になりつつありますが、さらに南米地域の「デジタルハブ」を目指し、この分野でも南米を牽引する重要国となっています。そんな日本の裏側の国でデジタル分野の政策動向の調査や日本企業の活動支援を行っています。5Gや海底ケーブルなど日本の優れた先進技術への関心は高く、日本企業や総務省とともに、チリとの連携を日々模索しています。加えて、環境政策の調査や訪日観光促進など、総務省の分野以外も担当し貴重な経験を得ています。

夢中になれるものを探しませんか？

総務省の魅力は国内外問わず多様な活躍の場があることです。私も入省から10年様々な仕事に携わりました。

ネットの誹謗中傷が社会問題になれば、被害者救済の一助となる「発信者情報開示制度」を改正するため、未知の裁判制度の世界を勉強しました。ユーザーデータ管理を巡る問題で経済安保がメディアを賑わせれば、通信・ネット企業のガバナンス強化に向け、国内外の個人情報保護の専門家や企業から多くを学びました。巨大プラットフォームと粘り強く交渉する上司の姿が印象的でした。

多様な仕事に関わる中で一番心に残ったのは、中南米に日本の先進技術を普及させるべく奔走する上司の姿でした。いつかこうなりたいと強い憧れを抱いたのを覚えています。その希望に応えるように、スペイン語未学習の自分にメキシコ留学のチャンスをいただき、初めてラテン文化に触れ、そしていまチリに来てます。入省時には想像もしていませんでした。

「将来何をしたいか」就活の中で誰もが考えることですが、なかなか想像できない人も多いのではないのでしょうか。総務省の幅広い仕事には入省前には思いもよらない面白い世界が広がっています。これからの10年さらに世の中は変わっていくでしょうし、その原動力は間違いなくデジタル分野の成長です。みなさんも総務省で夢中になれる何かを探してみませんか？

とある一週間

月曜日	5G政策動向の調査。チリ通信省を訪問しヒアリングを実施。
火曜日	地方出張。国際イベントで日本文化「折り紙」ワークショップ。
水曜日	AIの国際会議。東京に議論を報告するために会議を傍聴。
木曜日	日本企業が来館。現状と今後のチリでの展開方策を意見交換。
金曜日	気候変動政策の調査。COP28に向けチリの報道等から情報収集。



折り紙を通じてチリの子供達と交流

PRIVATE TIME

休日は家族と観光に出かけます。近場の様々なワイナリーを訪問するのも楽しみです。何より南米は観光の宝庫。チリには、モアイ像のイースター島、世界一の星空が見えるアタカマ砂漠や氷河のバタゴニア。チリを飛び出せばマチュピチュ、ウユニ塩湖、イグアスの滝など。これから時間を見つけて訪問してみたいです。



CAREER PATH

キャリアパス

入省後は、係員・係長・課長補佐等とキャリアを積み重ねながら、主に特定分野の業務(例えば行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信など)を中心に担当します。概ね2～3年に一度人事異動があり、また、本省と地方支分部局との人事交流、地方自治体への派遣、他省庁や在外公館への出向、国内外の大学等への留学など、多様な経験を積む機会があります。

●総務省でのキャリアパス

係員級

入省から6～7年程度の間は、本省・地方支分部局等で係員として担当業務をこなしながら、上司や先輩から業務に関する知識や仕事の進め方等を学び、様々な業務経験を積んでいきます。

係長級(20代後半)

本省・地方支分部局等の中堅として責任のある担当業務を担います。担当政策について上司をサポートしつつ、部下を指導しながら、担当する業務の成果を最大化できるよう奮闘します。また、地方支分部局では、本省が立案した施策に対する具体的な業務執行の中核となって活躍します。

課長補佐級(30代後半)

本省で具体的な施策の企画・立案等を通じて、課室長をサポートしながら、担当施策を推進していきます。また、地方支分部局では、課室における業務執行の責任あるリーダーとして重要な役割を担います。

管理職

本省で課室が担当する施策の責任者として重要な役割を担いつつ、管理者として課室員全体をマネジメントします。また、地方支分部局では、局の幹部職員として活躍します。

省の幹部職員へ



研修制度

総務省では行政官としてのキャリア形成をサポートするため、地方自治体、民間企業や国際機関との人事交流、国内外の大学等で知見を高めつつ、総務省の行う政策等に資する研究等、多様な経験を積む機会が用意されています。また、数カ月に渡って長期的に実施されるものから、数日で集中的に学習するものまで、様々な研修が用意されています。

階層別研修



現在や将来の役職に相応しい知識や技能習得のため、新規採用職員から、係長級、課長補佐級、課長級等、職位に応じた様々な階層別の研修を実施しています。例えば入省直後に実施される新規採用職員研修では、省内各部署で実際に業務を担う職員から、部署の現状と課題や、所掌する行政分野を取り巻く状況を学ぶとともに、様々な講義を通じて、社会人として働く上で必要となるビジネスマナーや論理的な思考能力を養い、服務やコンプライアンス、情報公開制度、政策評価等、国家公務員として相応しい知識と教養を身に付けていきます。

専門分野研修



総務省の幅広い行政分野に対応するため、各分野の専門的なスキルを身につけるための研修も豊富に用意されており、職員のニーズにあわせてスキルアップしていくことが可能です。例えば統計分野では、統計研究研修所を有し、統計の基礎知識から統計理論、統計分析まで幅広い研修課程を設けているほか、情報通信分野では、情報通信政策研究所にて、キャリアパスに応じた総合研修、ICTの基礎知識(無線通信やネットワーク)、地域DX等の特定テーマを学ぶ様々な専門研修を受講することができます。また、eラーニングやビデオ教材の活用にも取り組んでおり、業務が忙しい職員でも「学びたい時に」「何度でも」「手軽に」学習しやすい体制が整備されています。

語学研修



総務省の所掌する行政分野においても、国際業務は年々拡大しています。この状況に対応し国際舞台で活躍する職員を育成するため、総務省独自に英語等の語学研修を毎年実施しています。日常の業務で外国人とやりとりがあり、コミュニケーションを円滑にしたい、海外赴任や海外留学に備えて勉強をしたい、国際会議への出席に向けて発言の練習をしたい、将来に向けてスキルアップを図りたいなど、様々なニーズを持つ職員がこの研修を受講し、語学力を高めています。また、令和5年度から新たに職員のオンライン英会話等の受講費用の一部補助を行っており、語学力の向上を支援をしています。

●総務省以外での活躍の場

他省庁や地方自治体等への出向

他の政府機関、地方自治体、独立行政法人等への出向を通じて、様々なものの見方や考え方を身につけるとともに、業務の提携・連携を深めます

留学制度

国内外の大学等で、専門的または国際的な知見を高めつつ、総務省の行う政策等に資する研究を行います。

在外公館等への出向

世界各地の在外公館や国際機関等に出向して、外交官や国際公務員として活躍しつつ、国際的な視点から、我が国及び総務省の業務を推進します。

総務省におけるワークライフバランスの推進

総務省では、全ての職員が仕事とプライベート双方の満足度を高めつつ、職員一人ひとりの能力を最大限発揮できる職場環境を整備するため、多様な働き方の推進に省を挙げて取り組んでいます。

働き方改革・業務見直しの取組



大臣官房秘書課働き方改革・業務見直し推進室では、省内の働き方改革を更に推進させるため、幹部による「働き方宣言の作成」や「定時退庁放送による呼びかけ」等による超過勤務縮減の取組や、「多面観察」（部下から上司の評価も行ういわゆる「360度評価」）の導入、「1 on 1 ミーティング」（上司と部下との間で行う1対1の対話）の実施など、様々な取組を進めてきました。

また、全省的な業務見直しを進めるため、RPAの導入やマクロの活用、新しい業務改善ツールの活用アイデアや好事例の紹介を行う省内勉強会や研修、若手職員が業務見直しについて議論するワークショップを開催しています。

そして、毎年の働き方に関する職員アンケートの実施や目安箱により、職員の生の声を聞くことで、必要な改革・見直しが何かを把握し、より一層、働きやすい職場環境となるよう、日々取り組んでいます。

テレワークや両立支援制度等を活用した多様な働き方の実現



総務省はテレワークの推進官庁でもあり、全職員がテレワークできる環境を整え、多様な働き方の選択肢の1つとしてテレワークを推進しています。特に、テレワーク勤務の質の向上を図ることにより、日常の働き方として、更に定着させることを目指しており、ペーパーレス化の更なる推進や、打ち合わせや会議のオンライン化、業務の仕方そのものの見直しにも取り組んでいます。

また、職員の事情に応じて活用できるフレックスタイム制、早出遅出勤務、介護休暇等の両立支援制度も充実しています。そのほかにも、年次休暇の取得促進や超過勤務の縮減等、総務省は、今後も、育児や介護、自身の障がい等、様々なバックグラウンドを抱えた職員だけでなく、全ての職員のワークライフバランス実現に向けた取り組みを進めていきます。

産前・産後休暇

産前6週間前（多胎妊娠の場合は14週間前）から出産の日まで、出産の翌日から8週間を経過する日まで休暇を取得することが可能です。

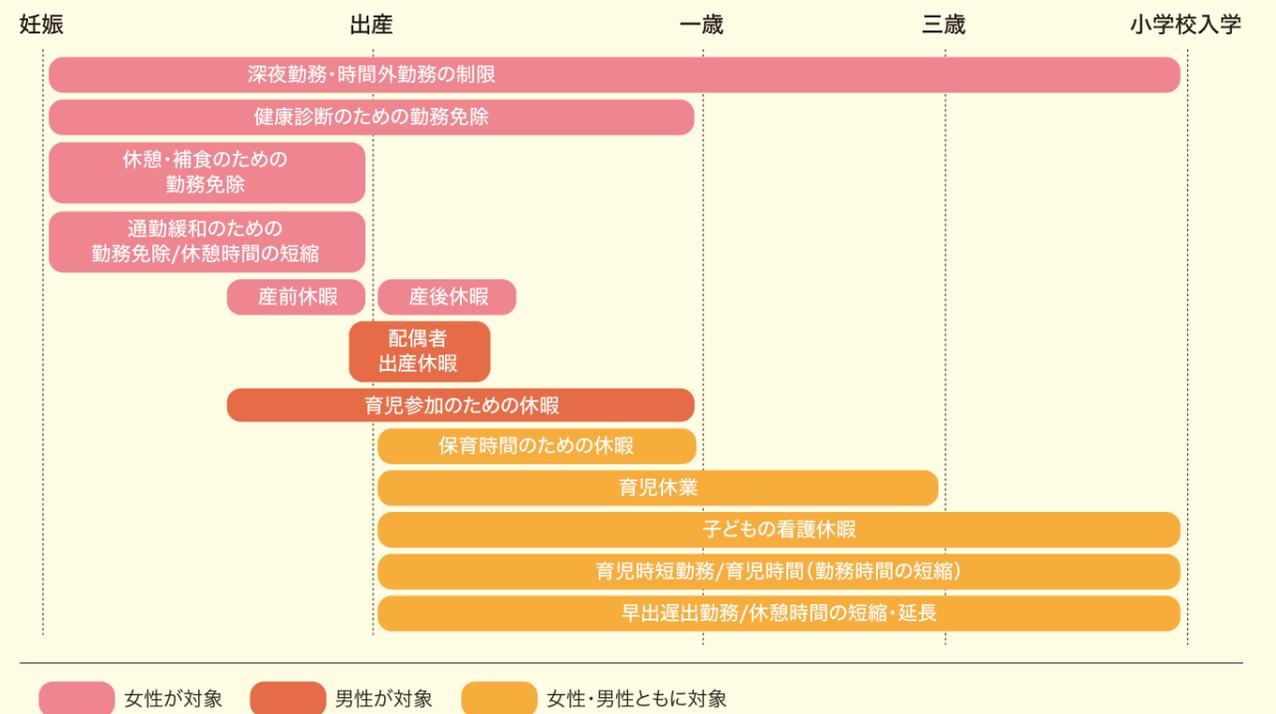
配偶者の出産休暇、育児参加のための休暇

妻の出産に伴う入院の付添い等を行うための休暇（2日）及び妻の産前期間から出産の日以後1年の間に、生まれた子や未就学児を養育するための休暇（5日）を取得することが可能です。

育児休業・育児短時間勤務・育児時間

子どもが3歳になるまで、一定期間、夫婦ともに育児休業することが可能です。また、子どもが小学校に入学するまでの間、通常より短い勤務時間で勤務することが可能です。

仕事と家庭の両立支援制度



採用関連Q&A

Q1 総務省ではどのような人材を求めていますか？

総務省は、行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信といった非常に幅広い分野を所管しており、それに対する課題は日々変化してきます。そういった状況の中で様々な業務や社会経済情勢の急速な変化に柔軟に対応でき、何事にも「チャレンジ」しようとする前向きな方を歓迎しています。

Q2 官庁訪問はどのように進むのですか？

官庁訪問を行う前に、行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信の中から希望分野を選んでいただきます。その希望をもとに、現在その分野で働いている職員を中心に面接を行います。ぜひ、官庁訪問を通じて、政策の最前線を体感してください。

Q3 公務員試験の順位や年齢は採用に影響しますか？

点数や順位、年齢は全く関係ありません。「人物本位」での採用を行っているため、官庁訪問ではみなさんの魅力や熱意を存分にアピールしてください。

Q4 統計や情報通信の専門知識や語学のスキルは必要ですか？

入省時に特別な知識は必要ありません。総務省では所管分野と関係のない学問を専攻していた方も多く採用しており、出身学部にかかわらず、様々なフィールドで活躍されています。また、業務に関する専門的な知識や語学については、研修が用意されています。仕事を進めながら活きた知識を身につけることが大事だと考えます。

Q5 説明会は参加した方がいいですか？

説明会への参加の有無については採用にあたって関係はありません。ただ、総務省で実際に働いている職員の雰囲気を生で感じられるため、是非説明会に参加いただくことをオススメします。

Q6 人事異動について自分の希望は反映されますか？

毎年、今後のキャリアプランについて自分の希望を伝える制度があり、この希望を考慮しつつ適性を踏まえて、配属・異動を決定しています。

過去の採用状況

		令和5年度	令和4年度	令和3年度	
一般職事務系・技術系 (大卒程度)	本省採用者	59(23)	58(21)	55(25)	
	地方支分部局採用者	管区行政評価局 行政評価支局 行政評価事務所	28(15)	31(13)	26(11)
		総合通信局 総合通信事務所	52(26)	53(27)	62(26)
一般職事務系・技術系 (高卒程度)	本省採用者	11(4)	9(2)	9(3)	
女性の割合		46%	42%	43%	

※1：カッコ内の数字は女性の内訳。※2：各年度試験には10月等に採用された人も含む。

説明会のご案内

総務省では国家公務員を目指している方に向けて総務省への業務の理解を深めてもらうため様々な説明会を開催しています。
説明会の最新情報は総務省の一般職採用ページをご覧ください。



MESSAGE

採用担当からのメッセージ

みなさんは、「総務省」と聞いて何を思い浮かべますか？

このパンフレットをご一読いただいでわかるように、
総務省は、国の基本的な行政制度の管理・運営、地方自治や消防・救急行政、
情報通信技術 (ICT) を活用した成長戦略の実現と幅広い分野を担っており、
この総合性を活かしながら、国民生活がより快適になるよう取り組んでいます。

しかし、これらは一朝一夕に実現するものではありません。

複雑化する社会課題に併せ、国民が求める“快適な暮らし”は、
刻々と変化していきます。

だからこそ、多種多様な価値観を持った人たちが、常にアクティブな行動力を持ち、
国民目線で課題を捉え、暮らしの在り方を考える必要があります。

みなさんが思い描く“快適な暮らし”とは何ですか？

総務省で一緒に実現していきましょう。

みなさんの来省を心よりお待ちしております。

採用担当一同

